

つながる
ひろがる
校友コミュニケーション

桜縁

おうえん

No.

23

日本大学校友会
会報誌
2013.7

特集

上を向いて歩こう。



桜縁おうえん


日本大学校友会会報誌
2013.7 No.23



Contents

- 2 気仙沼だより
三陸新報社記者 守 竜太さん
- 4 NU Scope
運動部紹介 ゴルフ部
サークル紹介 食品開発サークル「Highers☆」(生物資源科学部)
キャンパスの人気者 島田 晴香さん (商学部)
留学生紹介 高 知延さん (国際関係学部)
- 10 特集
上を向いて歩こう。
Part1 夏の夜空に描く夢
宗家花火鍵屋15代目 天野 安喜子さん
プラネタリウム・クリエイター 大平 貴之さん
Part2 宇宙と空にかける夢
有人宇宙システム株式会社 醍醐 加奈子さん
宇宙航空研究開発機構 山口 孝夫さん
三菱スペース・ソフトウェア株式会社 椋本 佳宏さん
気象予報士(北海道放送) 木村 比查子さん
- 24 トップの肖像
建築物の安全に寄与
株式会社グッド・アイズ建築検機構 藤田 孝行社長
- 27 旅、今宵のお宿
群馬県吾妻郡嬬恋村 北軽井沢ハイランドリゾートホテル
- 30 日大人 百花繚乱
写真で「ありがとう」の言葉を
医療法人社団 林田クリニック理事 林田 定昭さん
笑いマジックで高齢者に学ぶ喜びを
三重県生涯学習センター生活学習ネットワーク委員 大形 弘さん
- 34 フロントランナー
“トラ”を快進撃へ導く
阪神タイガース監督 和田 豊さん
- 38 いいもの美味しいもの紀行
群馬県渋川市 始祖 清水屋の「水沢うもどん」
- 40 ふるさと礼讃
徳島県徳島市 阿波おどり
ふるさと案内人 坂本 守さん
- 43 首長に聞く
新幹線開業を機に市の存在感を高める
福井県福井市 東村 新一市長
- 46 夢に向かって
ミス日本グランプリ受賞者 鈴木 恵梨佳さん
- 47 先輩にインタビュー
ブライダルの仕事
綱町三井倶楽部 笠野 恵里さん
インタビュアー 文理学部 高林 夏希さん
株式会社 京王プラザホテル 北田 明子さん
株式会社 八芳園 鈴木 ひとみさん
パレスグランデール 稲田 卓也さん
- 55 書籍紹介
- 56 支部・部会紹介 栃木県支部
宮崎県支部
- 58 校友会ニュース
- 60 お知らせ・掲示板



 抽選で総勢34名さまにプレゼント!
詳しくはP60をご覧ください。

表紙の写真
歌川広重「名所江戸百景・両国花火」

「桜縁」の由来
「桜」は日本大学の校章にもあしらわれた花です。この桜(日本大学)を媒介として大学、校友、在学生のそれぞれが新しい「縁」を結び、互いに助け合い、協力し合いながら発展していくためのコミュニケーション誌という思いを込めて『桜縁(おうえん)』と名付けました。また、校友の方には母校の活動と後輩を、在学生の方は仲間同士で「おうえん(応援)」「しましよう」という心も託しています。

文と写真
もりりゅうた
守竜太さん
三陸新報社記者
平成15年文理学部社会学科卒業

震災「後」のまちが 古里になる息子へ

今年の12月で3歳になる息子がいる。震災が発生したのは生後2カ月半のころだった。大きくなる体格、発する単語が増えていく会話、積み重ねられるその成長の年月はまた、震災からの月日とはほぼ重なる。今年に入ってしまっただろうか。息子を車の後部座席にあるチャイルドシートに乗せて出掛けた日のことだ。

私が住む鹿折地区も大きな被害を受けた。震災から2年が経とうとしていたが、被災現場に復興を感じることはできない。遠くで重機が長い腕を伸ばして被災した建物を解体していた（被災地では解体作業すらまだ終わっていないのだ）。

うらやましくなるような好奇心で、息子は車の窓から見えるものを片っ端から口に出して運転席の私に伝えようとする。

「バス！ おっきいねえ」「カラス、飛んでった」

ふと、重機の解体作業を目にした息子は言った。

「あれ、壊れていくね」

何の感情も加えられていない2歳児のストレートな言葉に、思わず返す言葉が見つからず、「そうだね」

としか答えようがなかった。

私たち大人や物心がついた子供たちにとって、被災した場所、古里には震災を境に「前」と「後」がある。だから震災前の写真を見てかつての風景を思い出したり、悲しい気持ちになったりもする。

でも、震災当時生後間もなかったり、その後にも生まれてきた子供たちにとって、古里は震災「後」のまちならぬ。息子にとっては建物が壊され、これから目にするであろう新しく創られる気仙沼が古里となる。

復興事業の多くの場面で、「子や孫のために」という言葉は使われる。その思いは決して忘れてはならない。我々大人が知っている震災「前」の姿にはかりとらわけて、子供たちに残すべき震災「後」のまちならぬ形がぼやけてしまっただけではない。

息子は将来、気仙沼の復興をどう見て、感じて、それを私にどう話すのだろうか。自分はそれにどう応えるのだろうか。

これからも同じ歳月を重ねる息子の成長と震災後の気仙沼。親として、被災地に生きる1人の大人として、感じる責任は重い。



震災翌日の鹿折地区

今年で3歳。成長とともに気仙沼は復興していく



震災から3日後、家族で避難した寺で。寒くないよう帽子や毛布などで全身を覆った。



サークル紹介 食品開発サークル「Highers☆(ハイヤーズ)」

Highers☆

平成23年、SNSを通じて知り合った食品ビジネス学科の新入生6名が意気投合し、設立。「食を通じて人々を幸せに」を目的として、食品メニューや商品開発を行っている。3年生11名、2年生25名、1年生数名の約40名が所属(平成25年4月現在)。



生物資源科学部食品ビジネス学科3年

代表 倉田 沙也加さん(左)

副代表 亀井 麻友美さん(右)

高校時代は、バスケット部(倉田)、サッカー部(亀井)に所属していたため、「お互い体育会系で、つい男子好みの」がっつりメニューになってしまいますと笑う。



企業や大学の食堂で該当メニューを購入すると、1食につき20円が寄付金となって、開発途上国の子どもたちの学校給食に充てられるというプログラム「TFT (TABLE FOR TWO)」のプログラムに参加して、学食でTFTメニューを提供しているサークルが「Highers☆」だ。TFTに参加している大学は100校ほどあるが、学生が調理・販売まで行っているのはここだけという。本館ガレリアにある食堂「スエヒロ」で毎週火曜日に数量限定で販売されるTFTメニューは、月ごとにメニューも替わり、すぐに完売するなど、学生や教職員にも人気が高い。大学の農場で採れた規格外の野菜を譲ってもらったり、顧問で管理栄養士の資格を持つ谷米温子先生に味の監修役を務めてもらうなど、大学の持つリソースを最大限活用している。

「コミュニティレストランでは、高齢者向けということで食材を細かくするなどの工夫をしています。『もっと頻繁に開いてほしい』と言われて、うれしかったですね」と副代表の亀井さん。

「現在大手スーパーマーケットと一緒に弁当を開発するプロジェクトが進んでいます。原価率を下げたり、減塩メニューにするなど、要求も厳しいですが、この秋の販売開始を目指して取り組んでいます」と代表の倉田さん。

そのほか、ケーブルテレビで放送されている藤沢市の広報番組で、地産地消のレシピを紹介するコーナーに出演するなど、活動も多方面に広がっている。

「設立メンバーも3年生になって、後輩への引き継ぎも行っています。学生でも一生懸命やれば、たくさんの方が協力してくれることが実感できて、いい経験ができました(倉田)

調理、試食で新メニューを開発 食を通じて人々を幸せにしたい



運動部紹介



“優勝”の2文字を刻むため 厳しい練習の日々を過ごす

ゴルフ部 昭和31年に同好会として発足。以来、学生ゴルフ界の雄として君臨。これまで200名を超えるプロゴルファーを輩出し、プロゴルフ界においてもその名を馳せている。平成25年度は、男子78名、女子15名の部員が所属。「日本大学の建学の精神に基づき、競技ゴルフというスポーツを通じ、心技体の向上を目指し、社会に貢献しうる人材育成を行う」を基本方針に、練習や大会に臨んでいる。



和田 光司監督
昭和47年商学部会計学科卒業

信。夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦25年連続制覇および通算32回優勝、全国大学ゴルフ対抗戦通算33回優勝など、輝かしい成績を誇るゴルフ部。強豪プロゴルファーを数多く生み出してきただけでも知られる。大学最強の称号をほしきままにしてきた歴史は、約40年間にわたってゴルフ部を率いた故・竹田昭夫初代監督の功績が大きく、現在監督を務める和田光司監督も教え子の一人である。

「竹田監督が亡くなる前後、しばらく2位、3位に甘んじた時期がありました。私が監督代行になって3年目に優勝できたとき、それはうれしかったですね」と和田監督は振り返る。

栄光の時代が長く続いてきただけに、空白期間をはさんでの優勝はプレッシャーも大きかったに違いない。監督代行から監督に就任し、付属高校から選手を集めるなど、すべてを見直して体制の強化に取り組んできたという。成果は次第に現れており、平成21年には3つのタイトルを獲得。また21年、22年と全国制覇を連続達成するなど再び光を取り戻しつつある。大学ゴルフには、個人戦の大会もあるが、メインは団体戦。そのため、チームワークも要求される。部員たちは大会登録メンバー入りを目指して校内予選を勝ち抜こうと、日々厳しい練習をこなしている。

「強くなる選手はしっかりと勉強もしますし、練習も合理的。時間を有効に使っています」と文武両道を強調。

国際関係学部の三島キャンパス近くの寮では、OBの小野英秋コーチ(平成17年卒業)が寝食を共にして指導に当たるなど、練習環境も恵まれており、今後ますますの活躍が期待される。



留学生紹介

NU Scope



韓国と日本に立ち お互いの文化理解に役立つ 放送コンテンツを紹介したい



高知延さん

国際関係学部国際ビジネス情報学科4年



富士山の湧水がせせらぎとなって市内を流れる風光明媚な三島市を「第二の故郷」と呼ぶ高さん。部屋を借りるときも富士山が見える部屋だったので、その場で即決。「毎日富士山を眺めています」。

韓国のCS放送局で、ファッションや音楽の専門チャンネルを制作していた高知延さん。放送コンテンツビジネスについてもっと勉強したいという思いが募り、仕事を辞めて留学を決意。留学先として日本を選び、6年前に来日した。東京で約2年間日本語を学んだのち、静岡県三島市にキャンパスのある国際関係学部に入學。仕事柄、芸術学部放送学科の存在を知り、本学に親しみを感じていたという。異文化間の国際ビジネスにおける経営、人事などについて学ぶ一方、1年次から静岡県の「ふじのくに留学生親善大使」に任命されて、国際交流活動が続けてきた。「静岡県内の小学校に行つて、韓国の料理を紹介しました。日本ののり巻きに似ているキムパプや、お好み焼きに似ているチジミを子どもたちと一緒に作ったのです。身近な料理を通じて、韓国と日本の似ているところ、違うところを感じてほしかったんです」そのほかにも大学内で国際関係学部公認の「日韓交流会」へ「ミル」

という学生団体を立ち上げた。「立ち上げ当初、日本の学生はミーティングでなかなか自分の意見を言ってくれず苦労しました。でも、一人ずつ話してみたら、自分の考えがないわけではなく、場の雰囲気壊したくないという遠慮があったんですね。お互い打ち解けた今では、日本の学生も活発に発言してくれるようになったという。こうしたさまざまな活動を通じて、日本の文化を吸収した高さん。大学卒業後もしばらくは日本に住み、ビジネススクールでMBA（経営学修士）を取る予定だ。「韓国と日本、両方の文化を体験したことを生かしたい。将来的には両国の間に立つて相互に放送コンテンツを紹介する仕事をしたいです。経営や人事でも、韓国人の情熱的な部分と、日本人の真面目さ、計画的なところのシナジー効果を出していきたい」と未来への展望に曇りはない。

島田晴香さん

商学部商業学科3年

キャンパスの人気者

AKB48でつかんだチャンスを マルチタレントの夢へとつなげたい



尊敬する人物は、櫻井翔さん。「アイドル、俳優、キャスターと、何をしても一流の人。櫻井さんのような、マルチタレントになりたい」と目を輝かす。

高校時代、AKB48のテレビ番組で、研究生の募集を知り応募。テニス部だった島田晴香さんは、真っ黒な日焼け顔にジャージ姿という、アイドルオーディションとは思えない写真を送ったが、見事に合格した。「飾らなさが珍しかったんですかね？」と笑う。約1年半後、正規メンバーに昇格。研究生時代と違い、撮影、番組収録、劇場公演など多くの仕事をこなさなければならぬ。それでも、大学進学はゆずらなかつた。「将来はスポーツキャスターになるのが目標の一つなんです。教養が必要な仕事ですし、自分の言葉に説得力をもたせるためにも、大卒というキャリアにこだわりました」。商学部を選んだのも、幅広い教養を身につけるため。専門分野にとどまらず、学ぶことへの意欲は旺盛だ。いま好きな科目は「日本語を考へる」。番組での発言、SNSの執筆など、話し、書くことも仕事だけに、日本語の表現を知る上で大いに役立っている。「実は簿記の資格も取りたいんです」と島田さん。会計への興味はもちろん、旅館を営む両親の役に立ちたいという思いもあるからだ。とにかく前向きな性格。アイドルという枠に収まることなく、どんな仕事にも挑戦するのを信条としている。「仕事を選び好みていたら、成長のスピードが落ちちゃいますから。先輩たちが安心して卒業できるよう、早く実力をつけて上位を目指したいんです」。メンバーが多いだけに価値観や性格も様々だが、それぞれの個性を認めながら、物事を柔軟に考へる姿勢も身についたという。学生とアイドルの両立はさぞやたいへんだろうと思いきや、本人は涼しい顔。「AKB48でつかんだチャンスをもっと広げたい」と語り、マルチタレントという夢の実現へと突き進んでいる。

特集

上を 向いて 歩こう。



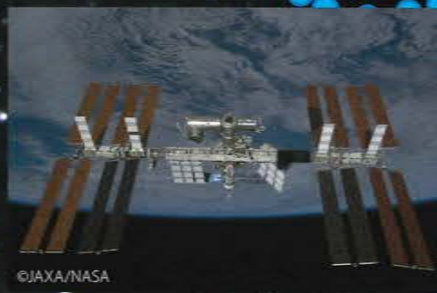
©JAXA



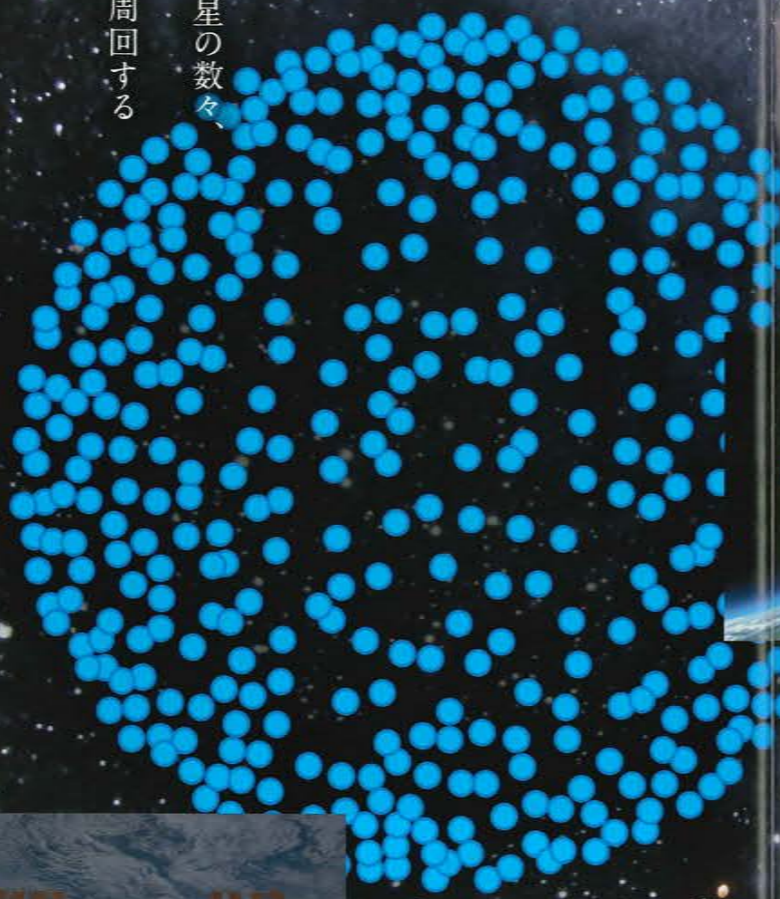
©JAXA



©JAXA/NASA



©JAXA/NASA



夏の夜空を彩る花火、

漆黒の天空にきらめく星の数々、

地上400kmの高さを周回する

国際宇宙ステーション、

そして流れる雲、降り注ぐ太陽の光……。

大空を見上げれば、夢とロマンに満ちた大スケールの空間が広がっている。

携帯電話やスマートフォンの小さな画面ばかりを見つめていないで

上を向いて歩けば、気分も晴れやかに

明日への活力がわいてくるに違いない。

そこで本特集では、大空や宇宙を仕事の舞台として

めざましい成果を挙げている校友にご登場いただき、

そこにかかる夢や思いを語っていただいた。





夏の夜空に 描く夢

江戸時代の花火見物の様子を
描いた歌川広重『名所江戸百景・両国花火』



彼らがスポンサーになって、花火が打ち上げられるようになったんです」と話すのは、花火師として鍵屋15代目を引き継いだ天野安喜子さん。
江戸の情緒を今に伝え、鍵屋の先代たちによつて洗練されてきた日本の花火の魅力については、「どこから見ても丸く球形に広がる花火は日本独自のものです。一発の花火はわずかに数秒の命ですが、星と呼ばれる火葉が光を発しながら何重にも広がり、色に変化するな

受け継ぐ 花火師の心意気

江戸の伝統を

ど、海外の花火にはなかなかまねできないものです」
2年間の修業を経て
15代目の重みを
感じずに襲名

三姉妹の次女だった安喜子さんが跡取りを
決意したのは小学校2年のときだった。同時に14代目である父・修さんが開いた道場で、第1期門下生として柔道を開始。大学は本学文学部体育学科に進学し、柔道部初の女子選手として汗を流した。
大学を卒業して、山梨県内の花火製造会社で2年間の修業生活を経験。鍵屋に戻って、15代目を襲名したのは29歳のときだった。
「正直いってまったくプレッシャーはありませんでした。ただ単に父の跡を継ぐ

撮影=タカオカ邦彦



宗家花火鍵屋15代目 天野 安喜子さん

平成21年大学院芸術学研究科博士後期課程修了

◆プロフィール
天野 安喜子(あまの・あきこ)
昭和45年東京生まれ。小学校2年生より柔道を始め、高校時代には「女姿三四郎」と呼ばれた山口香選手に一本勝ちするなどの活躍を見せる。平成5年文理学部体育学科卒業。花火師としての修業を積み、平成12年鍵屋15代目を襲名。北京オリンピック柔道男子100kg級決勝の主審を務めるなど、国際柔道連盟A級審判員の資格を持つ。平成15年大学院芸術学研究科入学。芸術学博士。

日本の花火の伝統を守り
見ている人が
元気になるような
花火を打ち上げたい



花火大会がもっと楽しくなる 花火図鑑

打ち上げ花火を構造で大別すると、割物、小割物などに分類される。

●割物
球形の玉の内側に星(火薬)を並べ、中央に割火薬詰める。爆発力を高めるため、外側を紙で何重にも張り固めて作る。菊や牡丹などがその代表。

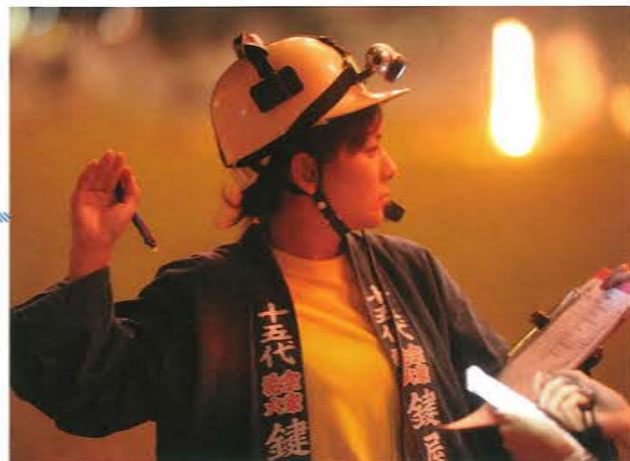
●小割物
玉が開くと、中に込められていた小玉が四方八方に広がり、さらにその小玉が一斉に開くもの。大輪の花火とはまた違った風情がある。

●牡丹
星が尾を引かず、花弁の色だけが見えるのが特徴。通常、2色、3色と重ねられ、花弁の色合いが変化する。

●割火薬
割火薬
芯星
玉皮
導火線

●小割り
小割り
星
割火薬
玉皮
導火線

印半纏にヘルメット姿で作業に当たる。安全には十分過ぎるほど気を遣う



◆花火が打ち上がるまで

花火大会の現場はまるで工事現場だ。70人近いスタッフが手際よく持ち場をこなす。その総指揮をとるのが天野さん。安全を第一にスタッフと綿密な打ち合わせ、さらに安全祈願の神事と休む暇はない。

打ち上げはすべて電気点火。入日が西の空を赤く染めれば、さあよいよ花火の始まりだ。



撮影=タカオカ邦彦

という感覚で、15代目という意識がなかったんです。1年ぐらいたってどーんとプレッシャーというか、15代目としての重みや周囲の期待を感じるようになって、未熟さを痛感しました。たぶんその重みを知っていたら、怖くて継げなかったと

「思います」
遠隔操作での電気点火による打ち上げ技術で安全性を確立した14代目からは、襲名に当たっては「おまえも15代目として世間から認められる何かを残せよ」と言われた。

大学院での研究の成果を生かし 音にこだわり、自分の色を出したい

現在、花火師としての仕事は、主催者との演出の打ち合わせや、花火製造業者とのやりとり、遠隔操作の準備、音源の選曲、音響設備の配置、アナウンスの台本作成など多岐にわたり、いわばイベントプロデューサー的な仕事である。

「音が大好きなことから、自身でも花火の音が響くことから、鍵屋15代目の印半纏をまとう誇りと責任にかけて、次のように話す。」

「音の面で15代目として残せるものを見つけていきたいですね。人が感動したり、喜ぶものは、機械ではなくて人間が生み出すものです。それも一人では生み出せません。やはり最終的には人と人とのコミュニケーションが大切になるのではないのでしょうか」



子どもものころからの 情熱は消えることなく プラネタリウム作りに昇華 まだまだ夢は続く

都会を離れ、旅行で訪れた高原や離島で、星空の美しさに見とれてしまった経験はないだろうか。明るく輝く1等星や天の川を頭上に仰ぎ見るのは、心洗われる瞬間だ。

そんな星空への憧憬を、少年のころからプラネタリウム作りに昇華させていったのが大平貴之さんだ。

「小学生のとき住んでいた川崎市はあまり星が見えないところでした。近所の川崎市青少年科学館のプラネタリウムでは降るような星を見せてくれて、ふだん見ているよりもはるかにきれいな星でした。それが魅力的だったんですね」

そこで大平少年は、夜光塗料を塗った紙

プラネタリウム・クリエイター 大平 貴之さん

平成8年大学院理工学研究科
博士前期(修士)課程修了



夏の夜空に描く夢

プラネタリウムで 紡ぐ星空のロマン

特集
上を
向いて
歩こう。
Part 1

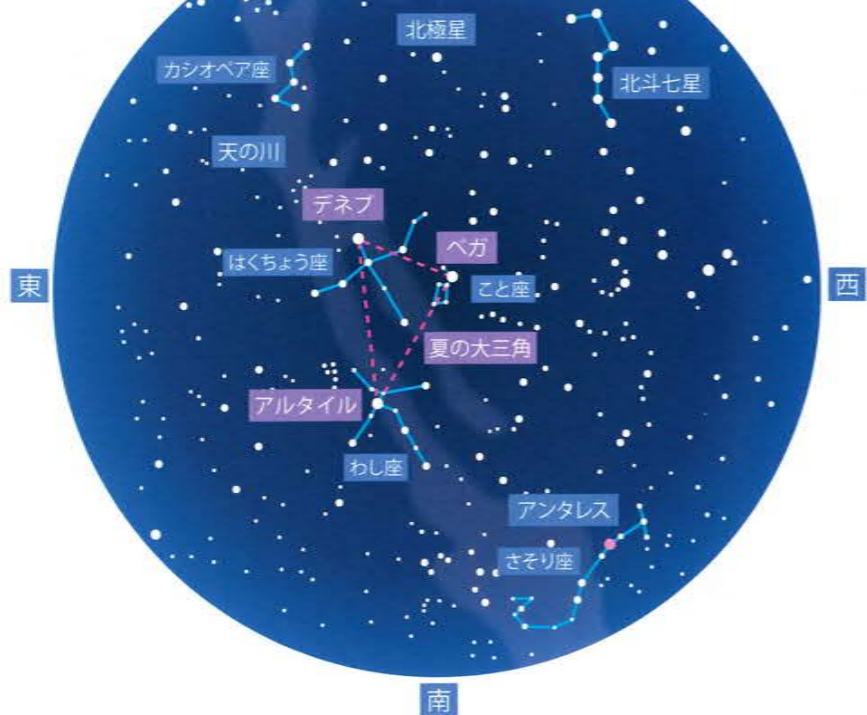


★夏の星空を彩る星座を見つけよう!

夏の夜空ではまず「夏の大三角」を見つけましょう。時間にもよりますが、8月の夜9時ごろになると天頂近くに織姫星である「こと座」のベガが見えます。そこからやや北の方には、「はくちょう座」のデネブ、南に彦星である「わし座」のアルタイルが見えます。この3つの

こう見つけやすいはず。南の空が開けていれば、「さそり座」が見られます。空の低いところに、赤く輝いているのがアンタレスで、サソリの心臓に当たる星です。あとは、星座早見板とか、スマートフォンの星座アプリなどを使って、まわりのいろいろな星座を探してみ

明るい星なので、都会でもけっ

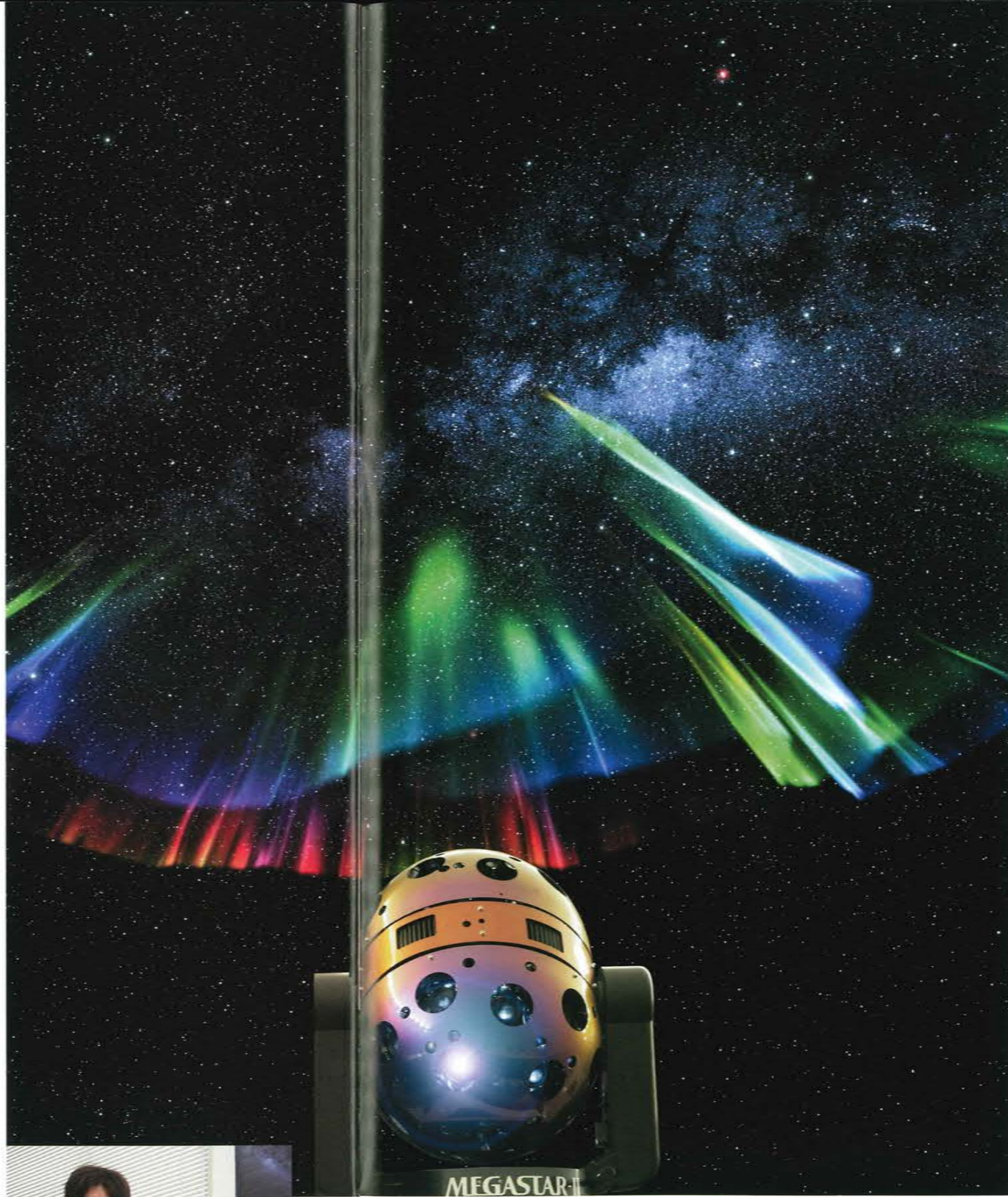


◆プロフィール

大平 貴之(おおひら・たかゆき)
昭和45年神奈川県生まれ。小学生のころからプラネタリウムの自作に取り組む。生産工学部機械工学科在学中にレンズ投影式プラネタリウム「アストロライナー」を開発。株式会社ソニー就職後も、平成10年には170万個の星を映し出す「MEGASTAR」を発表。平成17年有限会社大平技研を設立。MEGASTARシリーズは国内外の数々のプラネタリウムに常設されているほか、イベントも多数手がけている。



大平さんが共同開発した家庭用プラネタリウム「HOMESTAR」を3名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。



一番好きな星座はオリオン座という大平さん

を円形に切り抜いて、オリオン座の配列で自室の壁に貼って簡易的なプラネタリウムを作ったのだ。明かりを消すと星が浮かび上がる。その喜び! 科学実験やロケット製作などさまざまなことに取り組みつつも、小学4年生のときからの夢と情熱を失うことなく、その後プラネタリウム作りへのめり込んでいった。「両親も最初はとまどいもあったと思いますが、いったい何をやっているんだろうと。ただ次第に根負けして、これは頭ごなしにつぶしてはいけないと感じたんでしようね」

第二高等学校に進学し、物理部天文班に所属。1年生の文化祭では早くも自作のプラネタリウムを公開。自分で星空の解説もを行い、好評を博した。

大学生活を注ぎ込んだ
「アストロライナー」完成

本学生産工学部に進学すると、プラネタリウム製作はますますエスカレートする。高校時代に製作したものは、原理が簡単なピンホール式だったが、今度はアマチュアでは例のないレンズ投影式のもの。製作に当たっては、天文学の知識だけでなく、光学、機械工学、電気工学、コンピュータの知識も必要とされる。製作のための時間と費用を捻出するため、1年間の休学を経て、完成した投影機は「アストロライナー」と名付けられた。大学3年の秋、生産工学部の学園祭「桜泉祭」で公開。直径8mのエドームの製作など友人たちの協力も得たが、基本的にはサークルにも所属することなく、個人的な活動だった。「製作に当たっては機械科実習室の先生方にお世話になったり、公開時も体育館を貸していただくなど、大学の全面的な協力があったこそのもでした」

その後、大学院を経て株式会社ソニーに就職。それでもプラネタリウムへの情熱は消えることなく、自動車を持ち運べるほど小型軽量で、性能的にもランクアップを目指した新型機の設計に取りかかる。

やがて完成したのが、170万個の星を投影できる「MEGASTAR (メガスター)」だ。その後、投影星数は次第に増え、平成20年に発表された「SUPER MEGASTAR II」では2200万個にも達した。

大人も楽しめる空間へ
夢は大きく広がる

「スケールの大きな星空に目を向けると、日常の悩みも忘れられるし、リフレッ

シユできます。大人であれば、童心にかえったり、一緒にいる人と星空を見ながらコミュニケーションが生まれることもあるだろうし、いろいろな楽しみ方ができると思います」

これまでプラネタリウムというと、子ども向けの教育施設という色合いが強かった。大平さんは、「それだけではもったいない、大人も楽しめるもっと広がりのあるものになりたい」という。「BUMPOFF CHICKEN」や「Kiroro」など、アーティストとのコラボレーションを数多く行ってきたのもそのような考えから。今後は飲食店や病院など、MEGASTARの星空をもっと身近に体験できるようにしていきたいと話す。

「夢としては、テーマパーク全体をドームですっぽり覆ってしまうぐらいのものを作りたいですね。技術的には可能だと思います」と、ロマンはどこまでも広がっていく。



宇宙と空に かける夢



宇宙と空に かける夢

日の丸の国旗を付けた「きぼう」日本実験棟



筑波宇宙センター展示館「きぼう」の実物大モデルの前で

シオン全体の運用方法を限られた時間で習得する必要があるので、分刻みのスケジュールの中で、遂行すべきことを、それぞれの国で分担して訓練を行っているのだ。訓練は、基本的には和気あいあいと進められるが、ミッション達成のためには、やるべきことはやってもらうというスタンスは崩さない。

「宇宙飛行士も、管制官も、インストラクターも、同じミッションを達成するためのチームのメンバーです。お互いに信頼関係がなければ、チームは成り立ちません」
醍醐さんが、宇宙飛行士から厚い信頼を得ていることは昨年「シルバー・スノーピー賞」を受賞していることでも明らか。これはNASAの宇宙飛行士が有人宇宙飛行に貢献した人に贈るといふ栄誉ある賞だ。
「日本大学で人工衛星の研究をしたことが、今の仕事に就くきっかけです。学んだことがこんなに役立つようなことって、めったにないんじゃないでしょうか」

有人宇宙システム株式会社 醍醐 加奈子さん

平成17年大学院理工学研究科博士前期(修士) 課程修了

◆プロフィール

醍醐 加奈子 (だいで・かなこ)

昭和54年東京都生まれ。幼少時にはマレーシアに在住。日本に帰国するたびに利用していた航空機に関心を持ち、日本大学理工学部航空宇宙工学科に入学。大学院を経て、平成17年有人宇宙システム株式会社入社。有人宇宙技術部にて、宇宙飛行士の訓練インストラクターおよび国際宇宙ステーションの管制官として従事。



宇宙飛行士と 厚い信頼関係を築き 訓練インストラクターと 管制官の二役をこなす




現在日本における宇宙開発、中でも有人宇宙飛行の分野は、地上400km上空に建設された地球を90分間で1周する国際宇宙ステーション(ISS)のプロジェクトが中心となっている。ISSに設置された「きぼう」日本実験棟の運用や、その運用に当たる宇宙飛行士たちの育成・訓練を担っているのが宇宙航空研究開発機構(JAXA)だ。ISSは巨大なプロジェクトであり、民間企業所属の技術者や研究者も数多くこのプロジェクトに参加している。

有人宇宙システム株式会社に入社して9年目という醍醐加奈子さんもその一人。JAXAの筑波宇宙センターにおいて、ISSに滞在する宇宙飛行士を訓練するインストラクターと、管制官という二つの仕事をこなしている。

醍醐さんは日本の実験棟「きぼう」で作業に当たる各国の宇宙飛行士に対して、実験に必要な電力や通信、水などのリソースを管理する操作や緊急時対応の訓練を担当している。

「宇宙飛行士にとって『きぼう』は大きな宇宙ステーションの一部ですが、私たちは『きぼう』を専門に運用するスペシャリストです」

宇宙飛行士は「きぼう」を含め、宇宙ステーション

 筑波宇宙センターのスペースグッズを3名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。



©JAXA



筑波宇宙センターへ行ってみよう!

筑波宇宙センターの展示館には、「きぼう」の実物大モデルをはじめ、さまざまな人工衛星の試験モデル、燃焼試験に使われたロケットエンジンなどが展示され、宇宙開発の一端に触れることができる。

- 開館時間：10：00～17：00
- 休館日：年末年始、施設点検日等
- 入館料：無料
- 所在地：茨城県つくば市千現 2-1-1
- 無料駐車場：50台
- 車椅子・ベビーカー：展示室内可
- ペットの入場：不可
- 貸出：車椅子のみ可（無料、台数制限有）



宇宙と空に かける夢

今回の特集で紹介した3人の校友をはじめ、理工学部航空宇宙工学科は宇宙関連産業で活躍する人材を多数生み出してきた。

とりわけ、近年大きな成果を上げているのが理工学部のインセンティブ教育である「未来博士工房」の取り組み。「ものづくり」や「体験教育」に積極的に取り組んできた理工学部の特色をさらに発展させ、高度な専門教育・研究に必要な「自立性と想像力の覚醒」をキャッチフレーズに、「衛星工房」「人力飛行工房」「ロボット工房」「PC工房」「フォーミュラ工房」「物理学プロジェクト工房」「交通まちづくり工房」「電気エネルギー環境工房」「川の環境保全プロジェクト教育工房」の9つの工房を設置し、各種コンテストなどで実績を上げている。

航空宇宙工学科の学生が多く参加する「衛星工房」では、学生たちが主体となって超小型人工衛星を開発するプロジェクトが平成13年からスタート。10cm立方、1kgのキューブサットといわれる人工衛星を平成16年に完成させ、「SEEDS-2」として平成20年に打ち上げ成功。

また「衛星工房」では、衛星設計コンテストに応募した小型人工衛星「PRIMROSE」で最優秀賞を受賞。さらにこの設計モデルの複合膜面構造物展開の実証実験機として「SPROUT」を開発。平成25年度中の打ち上げが予定されており、本学での宇宙開発・研究への取り組みにますますの期待がかかる。



▲打ち上げへの期待が高まる「SPROUT」

▼一辺1.5mほどの正三角形の複合膜面構造物を展開する



学生の手で超小型人工衛星を開発 理工学部「未来博士工房」プロジェクト教育

ら3人が選ばれるまで、山口さんは1年以上にわたって彼らを見守り続けた。漫画・アニメ作品の「宇宙兄弟」で同様のシーンが描かれていたことで、存じの方も多と思うが、候補者を「きぼう」に模した閉鎖空間の中に1週間缶詰にして、さまざまな課題を出し、その反応を見るというテストにも立ち会った。

宇宙飛行士に必要な資質とは、協調性、リーダーシップ、またその反対にリーダーを支えるフォロワーシップ、状況認識、自己管理能力や心理的安定性が大事だと山口さんは言う。そのほか、ISSに搭乗するための英語能力や健康管理基準をクリアする必要がある。

宇宙の人文科学的研究から 宇宙服開発まで

山口さんは現在、宇宙実験の利用促進を行う、有人宇宙環境利用センターという部署で計画マネージャーを務めているほか、将来宇宙環境が広く利用されるための準備段階として、「なぜ人類は宇宙へ行くこうとするのか」といった思想・哲学の

分野から、「宇宙での創作活動とは」といった芸術的な側面まで、人類が宇宙に進出することの意義や価値を人文科学の面から探る研究を始めたばかり。

さらにこうした仕事をこなしながら、宇宙服の開発も並行して行っている。1着10億円と言われ、「小さな宇宙船」とも称される宇宙服。その開発の意義については、次のような答えが返ってきた。

「将来、日本の自前のロケットや宇宙船で宇宙に人を送り出したいという夢があるからです。そうなれば宇宙服も必ず自前のものが必要となります。そうしたことが進んでいけば、いつかきっとだれもが宇宙旅行をできる時代がやってくると思います」

国際宇宙ステーション(ISS)を見よう!

国際宇宙ステーションは肉眼でも見える。観測できるのは日没後や日の出前の約2時間、地域によって、見やすい日時や見える方向が異なるので、詳しくはJAXAのホームページ* (<http://kibo.tksc.jaxa.jp/>) や「ToriSat-国際宇宙ステーションを見よう」(<http://www.sightspacestation.com/>) で確認しよう。一等星よりも明るい光が薄暗い夜空をすーっと流れていく。
*サーバーメンテナンスのため、つながらない場合があります。



©JAXA/NASA



若田光一宇宙飛行士の船外活動訓練の様子 ©JAXA

宇宙航空研究開発機構

山口 孝夫さん

昭和62年大学院文学研究科博士後期課程満期退学

◆プロフィール

山口 孝夫(やまくち・たかお)
昭和32年神奈川県生まれ。昭和55年、理工学部機械工学科航空宇宙工学コース卒業。大学院では心理学を専攻。昭和62年宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構)に入職。以来一貫して有人宇宙飛行の研究・開発に従事。博士(心理学)。



日本における 有人宇宙飛行の歴史に 自分の仕事を 重ねてきた25年間



JAXAの前身である宇宙開発事業団に入職以来、長年有人宇宙飛行の研究・開発に携わってきたのが本学OBである山口孝夫さんだ。山口さんの仕事をたどると、日本の有人宇宙開発の歴史にびたりと重なる。

山口さんが最初に携わったのは「きぼう」の設計・開発だった。約半年間宇宙に滞在する宇宙飛行士が安全かつ快適に居住でき、使いやすい船内にするのが目標だった。とりわけ、騒音対策には気を遣ったという。

「騒音源として大きかったのは、ファンやポンプ、ダクトの振動音でした。かなり頑張って要求どおりのものができたと思ったら、ほかの国のモジュールはかなりうるさかったんです(笑)」

そのため、「きぼう」はどの国の宇宙飛行士からも人気があるようだ。

その後、山口さんは「きぼう」の運用に当たる管制官の育成業務を経て、日本人宇宙飛行士の選抜、養成・訓練を担当する業務に移った。

平成21年に宇宙飛行士に選ばれた油井亀美也、大西卓哉、金井宣茂の3人の選抜も山口さんが担当。1000人近くの応募者か



陸域観測技術衛星「だいち2号」(ALOS2) 予想図 ©JAXA

セオリーでは読めなくなった 地球の気象

リスナーの視点で空の変化を伝えたい

HBCラジオの昼のニュースの後、リスナーをなごませる温かみのある声で天気予報を伝える木村比查子さん。ドライバーや農家の人たちに「分かりやすい」と多くのファンを持つ人気のお天気キャスターだ。木村さんは天気図を解説し、その日の天気予報を自ら原稿にして放送に臨む。「独自に解説できるところが、原稿を読む専門のアナウンサーと気象予報士の違いでしょうか。アナウンサーが伝える天気予報の原稿も私の仕事なんです」

航空会社の客室乗務員(CA)だった木村さんが気象予報士の道へ進んだのは、飛行機から毎日眺める空の変化、雲の動きなどに興味をもったことがきっかけという。天気図を読めれば乗客のサービスにも生かせるのでは、そんな思いから2年間の猛勉強の末資格を取得。「ところが、折しも長野冬季オリンピック(平成10年)のときで、個人で世界と戦っている選手の活躍を目の当たりにし、自分の名前までできる仕事かと思うようになったのです」。そこで選んだのが、当時注目され始めていたお天気キャスターの仕事だった。それから15年、毎日空を見上げ、天気図を解説しながら思うことは、これまでのセオリーでは読めない気象と地球の変化だ。局地的な集中豪雨、竜巻などの激しい天気現象の増

加、また、温暖化が進んでいるにもかかわらず、近年厳冬が続いていることなど、「従来の南のエルニーニョ現象の観測だけでなく、北極近辺の情報も合わせないと正確な予報が難しくなってきました」。だからこそベテランとしての経験と情報収集、さらには母としての市民感覚をもった木村さんならではの気象予報が支持されているのである。

「予報が人の命を救うことも、ご商売に影響することもあります。それだけにリスナーがイメージしやすい言葉で伝えることを心がけています。空は生き物。その表情の変化を伝えたい。予報士それぞれ伝え方の違いがありますから、ぜひそこを聞いてほしいですね」



気象予報士(北海道放送) 木村 比查子さん

平成8年法学部法律学科卒業

◆プロフィール
木村 比查子(きむら・ひさこ)
昭和48年青森県生まれ。本学卒業後、航空会社の客室乗務員を経て気象予報士の資格取得。北海道文化放送(UHB)の天気予報番組を担当した後、北海道放送(HBC)へ移籍。結婚、出産による休職の後、現在はHBCラジオで「カーナビラジオ午後一番」のお天気コーナーを担当している。防災士の資格も持つ。

気象予報士とは?

平成5年、気象業務法の改正により、気象庁以外の一般の人でも気象予報の業務ができる気象予報士が誕生した。以来、年2回の試験には毎回4,000~5,000人が受験する人気国家資格だが、平成25年1月の試験の合格率はわずか4.0%という狭き門である。気象庁発表を伝えるだけでなく、独自の視点で解説を加え予報ができるのが、お天気アナウンサーと気象予報士の違い。



三菱スペース・ソフトウェア株式会社 棕本 佳宏さん

平成22年大学院理工学研究科博士前期(修士)課程修了

◆プロフィール
棕本 佳宏(むくもと・よしひろ)
昭和59年、徳島県生まれ。小学生時代、毛利宇宙飛行士のスペースシャトル搭乗に憧れて、宇宙に興味を持つ。平成16年、理工学部航空宇宙工学科入学。学部生時代には、パラグライダーのサークルに所属し、全国を飛び回る。大学院を経て、平成22年三菱スペース・ソフトウェア株式会社入社。



超小型人工衛星開発で 経験した苦労と喜び それが今の仕事に生かされている

有人宇宙飛行ばかりではなく、無人の人工衛星分野においても本学OBは活躍している。

地球観測衛星をはじめとした人工衛星の姿勢制御システムの開発に携わっているのが、棕本佳宏さんだ。

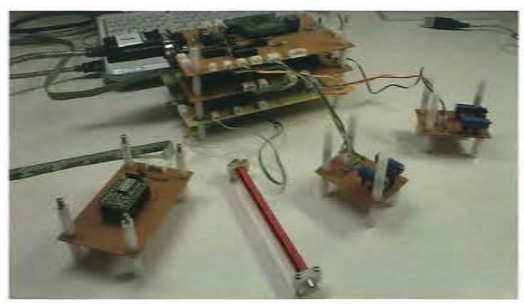
人工衛星を運用するには、上空のどの位置を回り、どの方向にアンテナやセンサーを向けるかなど軌道や姿勢を制御する必要がある。これにはスラスターと呼ばれる小型のロケットエンジンを使うのだが、そのためのソフトウェアを開発するのが棕本さんの主な仕事である。

棕本さんは、大学、大学院を通じて理工学部航空宇宙工学科、宮崎康行教授が率いる研究室に所属。そこで超小型人工衛星開発プロジェクトに携わったことが、直接今の仕事につながっている。

「学生時代で一番印象に残っているのは、『SEEDS-2』(シーズ2)の打ち上げのときです。当時は平均睡眠時間3時間くらいで、準備や打ち上げ後の運用に当たっていました。人工衛星から届いた最初のモジュール信号がはっきりと聞こえたときは、思わず大きな声を上げました。あの高揚感は今も忘れられません」と棕本さん。

研では「SPROUT(スプラウト)」の開発に着手。棕本さんもその初期開発メンバーとして、姿勢制御システムの開発や試作・試験モデルのBBM(Bread Board Model)を製作した。なお「SPROUT」は、平成25年度に陸域観測技術衛星「だいち2号」と同時にH-II Aロケットで打ち上げられ、次世代宇宙機の構造様式として期待されている複合膜構造の宇宙空間における展開実証実験などのミッションを行う予定だ(詳細はP.21コラム参照)。

「宮崎先生からは、目的や方法を考え抜いて実行すること、そして結果にこだわると厳しく指導されました。当時はつらいときもありましたが、社会に出たから、考え抜く習慣は大きな武器であることを実感しています」



学生時代に手がけた「SPROUT」の姿勢制御サブシステム試作機



株式会社グッド・アイズ建築検査機構

代表取締役社長

藤田 孝行さん 平成4年工学部建築学科卒業

第三者機関として 建築物の遵法性を 公正中立に判断し 安全に寄与する

世界的にも高い安全性を誇るわが国の建築物。その背後には、藤田孝行さんのような専門家が、厳しい目で構造を審査する法的制度がある。建築物の安全性に対する国民意識の高まりをいち早く察知し、起業へと動いた藤田さん。経営者としてできることを常に考え、後進の育成や社会貢献に力を入れている。

Takayuki Fujita



目線の転換を図りながら 着実に業容を拡大

平成10年、建築基準法が改正され、それまで行政が行っていた建築確認検査業務が、民間企業にも開放された。建築予定の物件について、法令が遵守されているか設計図や構造計算書を審査するこの業務は、そこに住む人、利用する人の安全性を担保する上で、きわめて重要な役割を担っている。

藤田孝行さんは、一級建築士として約8年間設計の仕事に携

わったのち、まだ認知度の低かった民間の検査機関に転職。約3年間の業務経験を経て、平成17年にグッド・アイズ建築検査機構を起業した。

「建築物の着工件数が増加し、民間機関の役割はしだいに重要性を増していました。そこで、真に公正中立な第三者機関として、私の理想にかなう会社を立ち上げようと思ったんです。社名には「本質を見極める目利

き」という思いをこめました。

おりしも、業務開始と同時期に構造計算書偽造事件が発生し、建築物の法令遵守に対する社会的な目線は厳しさを増しました。身の引き締まる思いでしたね」

ここまで右肩上がりの業績を築いてきたが、必ずしも順風満帆だったわけではない。ピーク時には年間120万件だった住宅着工件数が、平成20年のリーマンショック発生時には78万件にまで減少。現在は88万件にまで回復したが、少子高齢化などに伴って

経営者たる自分の役割に 悩み続けた5年間

民間機関に課せられたテーマはやはり信頼とスピード。行政サービスや同業他社との差別化を図るには、いかに迅速・正確に適正な審査が行えるかがかかっている。そのため、「人間性と専門性の追求」を社是にかかげ、人材の育成にも力を入れる。

「技術者の集まりですので、専門性の追求は当然のこととして、やはりいかに第三者としての資質をもてるかが非常に重要です。人間は感情が入ると、常識や倫理



次々と来る建築物の確認申請などの依頼に忙しく対応、社内には活気にあふれている



社長室は置かず、社員と机を並べて仕事をする

今後は減少が予想されている。当然、依頼される審査の件数にも影響が及ぶ。

そんな中、藤田さんは戸建て木造住宅の着工件数はさほど変化していないことに注目。大型建築物だけでなく、小さな物件の取扱いを増やすことで、業容の拡大を図った。起業時に6名だった社員は、現在80名。若手を積極的に採用し、活気に満ちた現場を築いている。

観などがブレてしまう。それが許されない仕事だけに、技術的なことよりも、むしろ人間が普遍的に備えているべき誠実さや礼節などを重視しています」

おおむね順調な道を歩んできたかに見える藤田さんだが、起業から5年目くらいまでは悩みが尽きない日々だったという。業績は好調だったものの、技術者として業務に目を光らせた自分と、会社のトップたる自分とのほごまで苦しんだ。



社会貢献の一環として東日本大震災の被災地域を支援。宮城県の大震災孤児の首さんを支援するため寄付(2012年6月)

「会社員だった頃は、経営者の方針にあまり共感できなかった。しかし、自分の会社を設立して、初めて経営の難しさがわかりました。結局、覚悟の問題だったのかも知れませんが、40歳を超えたら、急に視界が開けた。技術的なことはスタッフにまかせると腹を決め、経営者に徹する姿勢をようやくとれるようになりました。未熟者が少し大人になったんです(うね)笑」

旅 今宵のお宿 北軽井沢ハイランドリゾートホテル

群馬県吾妻郡嬭恋村
文・葉石かおり



満天星にときさを忘れる
高原リゾートのさわみ



トップの肖像



Takayuki Fujita



社員には積極的に話しかけコミュニケーションをとる

若い人材の育成を目指し 桜門社長会の発展に尽力

経営者となったことで、期待に胸がふくらむ出会いもあった。現在、日本大学出身の経営者が組織した「桜門社長会」の創立メンバーとなり、広報の副会長としてホームページ (<http://www.ounon-shachokai.jp/>) を立ち上げ、発展に努めている。

組織の大小にかかわらず、やはり経営者となった人間には確固とした経営哲学や、社会発展や人材育成に貢献したいという思いがある。藤田さんは、おもに学生に対し、社会人として生きるための心構えや知恵を発信したいと考えている。

「社会に一人で行けることはほとんどありません。多くの人と交流し、生きる上での指標となるような価値観を学んでほしい。就職にしても、私たちのような中小企業で修行し、起業への道を考えてもいい。若いエネルギーを存分に使い、自分の思いを形にできるような生き方を築くことが大切です」

大学院を含め、6年間を郡山



キャンパスで過ごしたことから、福島・東北への思いも人一倍強い。東日本大震災に心を痛め、支援の方法を模索。「ご恩返ししたい」という思いをこめ、一昨年には復興支援として300万円を、昨年には被災孤児の救済に250万円を寄付した。

「未曾有の大災害を経験し、建築物の構造や性能に対する審査は、ますます重要性を増しています。また、竣工後の建築物についても、耐震診断・調査の必要性が高まっています。そのような社会ニーズに応えられるよう、サービスを拡充してまいります。文系・理系を問わず、新卒生の採用にも力を入れていきたいですね」



◆会社DATA
株式会社グッド・アイズ建築検査機構
設立 平成17年9月
本社 東京都新宿区百人町2-16-15
M・Yビル2F、3F
TEL 03-3362-0475 / FAX 03-3362-0495

資本金 1億円
売上高 7億円
事業内容 建築物の確認検査業務、構造計算適合性判定業務等
ホームページ <http://www.good-eyes.co.jp>

◆トップのプロフィール
藤田 孝行(ふじた・たかゆき)
昭和44年群馬県生まれ。本学卒業後、佐田建設株式会社入社。老人福祉施設などの設計監理に携わったのち、建築確認検査機関に転職し、難関国家資格である建築基準適合判定資格者となった。社員数100名、売上高10億円を当面の目標にかけ、新人も積極的に採用したいと語る。座右の銘は「己を知る、無知を知る、恥を知る、足るを知る」。

ここに来るまで、空を見上げるということ、を久しく忘れていた。木々を飛び交い、美しい声で鳴く野鳥、時間ごとに表情を変える空。角ばっていた心が、ゆっくりに丸くなっていくのがわかる。この一瞬にして、北軽井沢にすっかり魅了されてしまった。

今宵の宿はかねてから焦がれていた北軽井沢ハイランドリゾートホテル。標高1300m、上信越高原国立公園の特別地区内に佇むホテルは、創業時より別荘族の社交場としても知られ、重厚な暖炉がある吹き抜けのロビーは、今も当時の面影を色濃く残す。祖父の時代より営んできたこの名ホテルを一手に担うのが庄司光宏さんだ。

そもそも庄司さんの祖父がこの地に縁を持ったのは、持病が深く起因している。「祖父は幼い頃、ひどい喘息だったのですが、別荘がある北軽井沢に来ると、発作がピタッと止まったそうです。その経験から空気が澄んでいることを確信し、この土地の購入を決断。そして宿を開いたの

ムで。季節ごとに変わるメニューは、地場のおいしいものを知り尽くした地元出身のシェフが丹精込めて調理する。メインは魚と肉のいずれも味わえるのがまたいい。

この夜、最も印象に残ったのは骨付乳飲み仔牛ロースのロティール粒マスタードソース。生後2週間と間もない仔牛は臭みがなく、ナイフがスッと通るほどのやわらかさ。噛んだ瞬間、甘い肉汁がジュワツと溢れ、瞬間に口中をおいしさでいっぱいにしてしまう。これはもう赤ワインしかない。窓から吹く高原の夜風を頬に夏の気配を感じつつ、旨味が共鳴し合うのを堪能した。

部屋へ戻る途中、酔い覚ましにと出たプールサイドで思わず声が出た。群青色の空一面に星が輝き、今にも降ってきそうな夜空が広がっていた。畏怖の念さえ抱くほど神々しく美しい星空は、お金や人の手で作るののできない無二の財。時を忘れ、柔らかな星の光を全身に浴びた。

翌朝、朝食を食べていると、女性スタッフが地元食材や周辺の見所について丁寧に教えてくれた。こういう情報は旅人にとって、最高の刺激となる。

「恵まれた自然はもちろん、地元、そして職場を愛するスタッフもまたホテルにとっては大切な宝物」という庄司さんの言葉がふと頭をよぎる。数時間ぶりに触った携帯で休みを確認し、次の訪問を決めてしまおうか。そんな急いた心を抑えつつ、今ひとたび空をあいだ。



ゴルフ、テニス、アーチェリーのほか敷地内の湖でボート、釣り、スケートも

北軽井沢ハイランドリゾートホテル

<http://www.kitakaruzawa-hotel.com/>

今宵の宿
 庄司 光宏(しょうじ・みつひろ) 第一観光開発代表取締役社長。

昭和45年東京都生まれ。平成5年理工学部土木工学科卒業。祖父の時代から事業を受け継ぐ三代目。二代目の父も日本大学卒。在学中は映画サークルで部長を務めた。

北軽井沢ハイランドリゾートホテル
 昭和41年創業。前身は浅間ハイランドパーク。平成2年に現在の形に。秋篠宮ご夫妻も宿泊され、「延泊したい」と絶賛。繁忙期は夏だが、9月以降もおすすめ。四季折々のレジャー、自然、大地の恵みを楽しむことができる。

群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原大字カクシコ1053
 TEL. 0279-84-5311
 部屋数:25室(アネックス棟メゾネットタイプ10室、プライベートコテージ15室)
 料金:13,500円〜※アネックス棟(2食付)。時期によって異なる。



▶扉(P27)写真/日が沈むと一段と趣を増すアネックス棟(写真下)、敷地内では浅間を望みながらミニゴルフが楽しめる



メゾネットタイプの客室は家族でも仲間同士でも



テニスコート

祖父の勤は見事に当たり、今やホテルの周辺には400軒の別荘が立ち並び、訪れる人は皆、四季折々の自然を愛しみ、特に夏は、「涼しさのちそう」を満喫しに来るといふ。周辺にはスキー場、ゴルフ場などのレジャー施設や、白糸の滝、鬼押し出しといった観光名所もあるが、レジャーはホテルだけでも事足りてしまう。敷地内にはプール(夏季)、ボウリング場、テニスコートが常設されており、何をするか迷うほど。「長期滞在がおすすめですよ」と庄司さんが言うよう、この宿は時間に余裕を持って、ホテルライフを満喫するのが正解のようだ。

プライベートコテージは次回の楽しみとして、今回はメゾネットの部屋を一人占め。ゆったりと過ごせる余裕ある空間は、身を置くだけで疲れが抜けてゆく。夕食までの間、パソコンや携帯から解放される時間にしばし酔うとしよう。

待ちに待った夕食は二階のダイニングルー



食事は地元の食材を使ったフレンチのコースが堪能できる

葉石かおり/平成元年文理学部ドイツ文学科卒業。エッセイスト



さまざまなタイプのコテージなら高原リゾートもさらに楽しくなる



◆白糸の滝
 高さ3m、幅70mの岩肌から無数に流れ出る白糸の滝。この水は千曲川へと流れ、信濃の大地を潤す。滝の前に立つと、細かな飛沫とともに「気」を充電できる。新緑の美しいこの時期は涼を求めて観光客でにぎわう。



◆浅間六里ヶ原
 浅間山の雄姿を一望できる浅間六里ヶ原。今にも自分の方へ向かってきそうな迫力に圧倒させられる。漆黒の闇になる夜は、星を観察できる場として知られ、県内外から人が集まる。「満天の星空は必見ですよ」と庄司さん。

みどころ



北軽井沢ハイランドホテルアネックス棟(1泊2食付)2名さま分を2組。浅間ハイランドパークのオリジナルワイン(赤白)2本入りを3名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。



医療法人社団 林田クリニック理事

林田 定昭さん

昭和40年歯学部歯学科卒業

Sadaaki Hayashida



釧路川の人気者ラッコの「クーちゃん」をはじめ、アザラシ、フクロウなど北の大自然に生きる動物たちの写真を撮影し、数々のスクープをもっているアマチュアカメラマンの林田定昭さん。歯科医師として業績を残す一方、写真を通して、地元を活気づけたい、元気にしたい、幸せにしたいと今日も北の大地をカメフラ片手に飛び回る。

写真で伝えていきたい 心から言える「ありがとう」の言葉

空襲の経験と 重なった人々の笑顔

釧路川に、平成21年2月に登場した一匹のラッコ。その愛らしい表情と仕草から「クーちゃん」と名付けられ、釧路市役所では「住民票」を発行、全国で知られるところとなった。そのクーちゃんの人気を全国的にしたのが林田定昭さん撮影の写真だった。

なぜクーちゃんなのか。その答えは林田さんの空襲体験にあった。釧路川に架かる幣舞橋のほど近くで生まれ育ち、5歳の時に釧路空襲にあう。

「釧路川は子どもの遊び場でした。その橋の上を必死に逃げまどう人々の姿が今も目に焼き付いて離れない」

それから60余年が経ち、同じ場所であつたのがラッコのクーちゃんである。

「クーちゃんを見た瞬間に何か強烈なインパクトを感じました。戦火で人々が逃げまどった場所に、毎日のように多くの人が訪れクーちゃんを見て笑顔で帰っていく。ラッコに癒され、毎日を生きている人たちがいる。戦争と平和の風景が重なる不思議な瞬間でした」

釧路川の風景がクーちゃんによって一変した。その感覚を本格的に写真にしてみたいと、その日からクーちゃんの愛らしい表情に取り憑かれたように、毎日撮影に出かけた。

クーちゃんが釧路川から去った後も、その姿を追って北海道の東部を奔走。その活動や思いをインターネットで発信し続け、2年間の結晶を写真詩集「クーちゃんから愛をこめて」として出版。こうした経験から「ラッコの住めない海は人類も滅びる」というメッセージをいまでも発信し続けているのである。

意志あるところに道は 開けると思う大切さ

林田さんは、歯学部卒業後、札幌医科大学口腔外科を経て、27歳で道東初の口腔外科医として開業した。開業当初はまだ歯科医が少なく、多い日で1日100人近い患者を診察し、睡眠時間4時間の日々が続いた。歯科の世界ではちょうど歯周病に対する考え方が大きく転換する時代だった。欧米へ出向き、最新の口腔外科医療を学び、最新の診療に取り組んだ。写真に興味をもったのは診療のため口腔

て、幸せだと感じる人を増やしたい。そして、あらゆることに、ありがとうと言える心を伝えていきたい。人生は四毛作。まだまだこれから。意志あるところに道はあります」と、天気が良ければ毎日撮影に出かけているのである。



北海道に生きる動物たちの撮影に飛び回る毎日
(阿寒国際ツルセンターで)

写真を撮り始めたのがきっかけ。5つ上の兄林田恒夫さん（法学部法文学科卒業）は、丹頂鶴の写真家として国際的に知られた存在。その影響がなかったわけではないが、気が付けば、故郷釧路に生きる動物たちに魅せられていた。

「釧路は大自然に囲まれています。被写体は輝ける北の大地の動物たち。テーマはピース、ラブ、ハッピーです。釧路の自然を発信する活動が続けることで、釧路の人を一人でも多く元気にし



「クーちゃん」人気のきっかけとなった林田さん撮影の写真



動物と心を通わせるとなぜかよってくる和林田さん▲▶





三重県生涯学習センター生活学習ネットワーク委員
大形 弘さん
昭和56年通信教育部法学部卒業

H i r o s h i O h g a t a



笑いとマジックで
高齢者に学ぶ喜びを

悪徳商法にNO
堅い話を笑いで包み

「最近は大イェットブームという
ことで、あるふくよかな奥さんが
痩せるには乗馬が効果的と聞き、
乗馬教室に通われたんですな。
そうしたら1週間経つても、ぜん
ぜん変わらない。おかしいやないか
と教室に文句言うたら、教室の
人がこう言うたらしいですわ。奥
さん、ちゃんと痩せてますよ、馬
が」。会場は大爆笑。なかなか笑
いは収まらない。

式年遷宮で話題の伊勢神宮が鎮座する三重県伊勢市。人口の高齢化は市政の大きな課題だが、市民、行政が一体となって生きがいのある人生と生涯学習に積極的に取り組んでいる。元高校教師の大形弘さんは、その生涯学習講師として笑いとマジックで高齢者に学ぶことの楽しさを伝えたいと講演やマジックショーに県内を飛び回る毎日だ。

◆プロフィール
大形 弘(おおがた・ひろし)
昭和12年三重県生まれ。高校を定年退職後は三重県教育委員会登録生涯学習講師、三重マジッククラブ代表としてボランティア活動に取り組む。平成20年・21年、伊勢市社会福祉功労賞を、本年に度会郡度会町社会教育功労賞を受賞。三重県手品連盟会長、三重県のごり音楽代表者。著書に「やさしい暮らしの知識」「学研・女性百科辞典(共著)」「あなたもタバコがやめられる(共著)」などがある。



演、第2部がマジック教室、3部がマジックショーになっている。まずはさまざまな話題で笑いを誘いながら健康の話や悪徳商法に対する啓発を盛り込み、会場に詰めかけた高齢者を惹きつけていく。マジック教室では全員に参加してもらい、新聞紙を使って簡単にできるマジックネタを伝授。最後は鮮やかな手さばきによるマジックショーで締めくくった。

大形さんが悪徳商法やタバコの害についての啓蒙活動を始めたのは、高校教師のとき。「ちょうど豊田商事事件が世間を騒がせていた昭和60年代初めです。生徒が悪徳商法の被害に遭わないよう授業で実態を伝えたのがきっかけですが、もっと広く知ってもら

おうとその後本を出版したので「やさしい暮らしの知識」としてまとめ自費出版したところ、これが評判となり、県や市から高校生だけではなく一般の高齢者向けに講演を頼まれるようになった。

ところが、「話をしている最中、聞いていない人や居眠りしている人が目に付きまして、なんとかならぬかなあ思うてたところ、小さいころから興味があったマジックを思い出したんです」

ならばとマジック教室に通い初歩を学ぶと、あとは自分でレパートリーを増やしていった。「今では300くらいレパートリーがあります」。高校を定年退職後は、講演やマジック教室での指導に本格的に取り組み、いまやマジックを織りまぜた講演は人気を呼び、県内全域から声がかかるようになった。さらに各市町村公民館のマジック講座でマジックの講師を務めるほどである。

生涯学習ほど
楽しいものはない

大形さんは、松阪市で高校教師をしているときもつと視野を広げたいと通信教育部法学部で学んだ。その経験が悪徳商法の被害に遭いやすい高校生やお年寄りへの啓蒙活動に取り組み下地になった。高校を定年退職後は、伊勢市社会福祉協議会会員や伊勢市ボランティア連絡協議会会員になり、幼稚園から小中高

多忙な日々を送るが、さらに活動の場を広げるべく、各自治体の役職者を訪ねては自己のプレゼンテーションを欠かさない。「この記事を見て、私に興味を持たれた方はお問い合わせください(090-2574-6733)」と大形さん。



校、老人ホーム、各種会合に出かけては講演会を開き、マジックを教えるなどしてほぼ県下全市町を回った。「ボランティアですからガソリン代は自腹。県境の山奥から海辺の町まで、よく回ったなと自分でも感心しています」

最近、学ぶことの喜びをもちと多くの高齢者に伝えたいとさらに情熱を燃やす。「三重も高齢化が進んでいましてね、みんな家に引きこもりがちになる。すると運動不足になって病気になる。すると、情報に疎くなって振り込め詐欺やインチキ投資話に引っかかりやすい。きつかけをつくって外出し、人と会話をして何か学ぶことにならなければいけません。高齢になっても学ぶことは楽しいし、健康にもつながります。それを伝え、健やかな人生を多くの人に送って



▲大形さんの手品道具。レパートリーは300を超える。
▼笑いが絶えない度会町主催の講演会。この日は60人ほどの高齢者が集まり、大形さんのしゃべりやマジックを楽しんだ。

てもらいたい。それだけが願いです」

そういう大形さん自身、今年で76歳を迎えるが、その「しゃべり」や手さばき、身のこなしは年齢を感じさせない。それどころか、自分の芸にもつと幅をもたせたいと、ノギリ演奏や南京玉すだれに挑戦。現在も月に22の公民館でマジックを教え、年間80回も講演やステージを務める。「私の人生のなかで今が一番楽しいし、とても充実しています」

目標は、活動の場をもっと広げ、あと10年は現役でいること。しかし、その行動力と情熱を見ていると、「あれは20年の間違ひでした」と10年後に言われても、少しも不思議ではない。



タイガースでの野球が好き 野球人である前によき社会人であれ 対話で選手の成長を見守り 心をつかみ「トラ」を快進撃へ導く

阪神タイガース監督
和田豊さん
昭和60年文理学部体育学科卒業



プロ野球ペナントレースが開幕して4か月。阪神タイガースの快進撃がとまらない。その陣頭指揮を昨年からとっているのが和田豊監督である。昭和60年、ドラフトで入団して以来、選手、コーチ、そして監督として29年間、縦縞のユニホームを着続ける生え抜き。タイガースは自分の分身と言いつつ、深くチームを愛し、めざすはもちろん日本一。この春、キャンプ地の沖繩で、野球哲学などをうかがった。

若い力の台頭 藤浪投手の加入が 大きな刺激に

●今シーズンの展望をお聞かせいただけますか？

こーい、2年はチームの変革期にあたるというのでいいでしょう。金本知憲選手や城島健司選手、

これまではレギュラー選手と控えの若手との力の差があり過ぎました。レギュラーの調子が下がったり、故障者が出るとチーム力がガタッと落ちていました。ところが今年は控えのレベルが上がって、レギュラーをカバーできる戦力になってきています。メジャー帰りの西岡剛選手や高校生ルーキーの藤浪晋太郎投手が入団したことも大きいですね。特に藤浪投手の加入はブルペンに刺激になっています。彼に負けてたまるかという気持ちで投手陣に強く出てきて、活気が生まれています。ブルペンに活気があると、自ずとチームは上昇気流に乗り、上位へ行く可能性が高くなってきます。

阪神といえば「打」というイメージが強いのですが、打撃はどうしても好不調の波があります。かつて打撃コーチをやっていた時代、チーム打率が2割9分という好成績を残した年がありました。でも、優勝できなかった。それほど、守りは大切。それだけに、守りの要である投手陣の充実はすごく大きいですね。今年は阪神に風が吹いていると感じています。

監督2年目で私が感じるのは、「ピッチャーの視点」で試合を見ることがいかに大切かということです。私はずっと野手としてプレイしてきたため、どうしても「バッターの視点」になっていたのですが、ピッチャーでもチャンスでも、今ピッ

チャーはどんな気持ちでいるのだろうという「ピッチャーの視点」で戦局を見つめると次に何をすべきかが見えてきます。若い野手の中

には、チャンスなのになぜかピンチになってしまう選手がいます。相手が追い込まれているはずなのに、逆に自分が追い込まれていると感じ

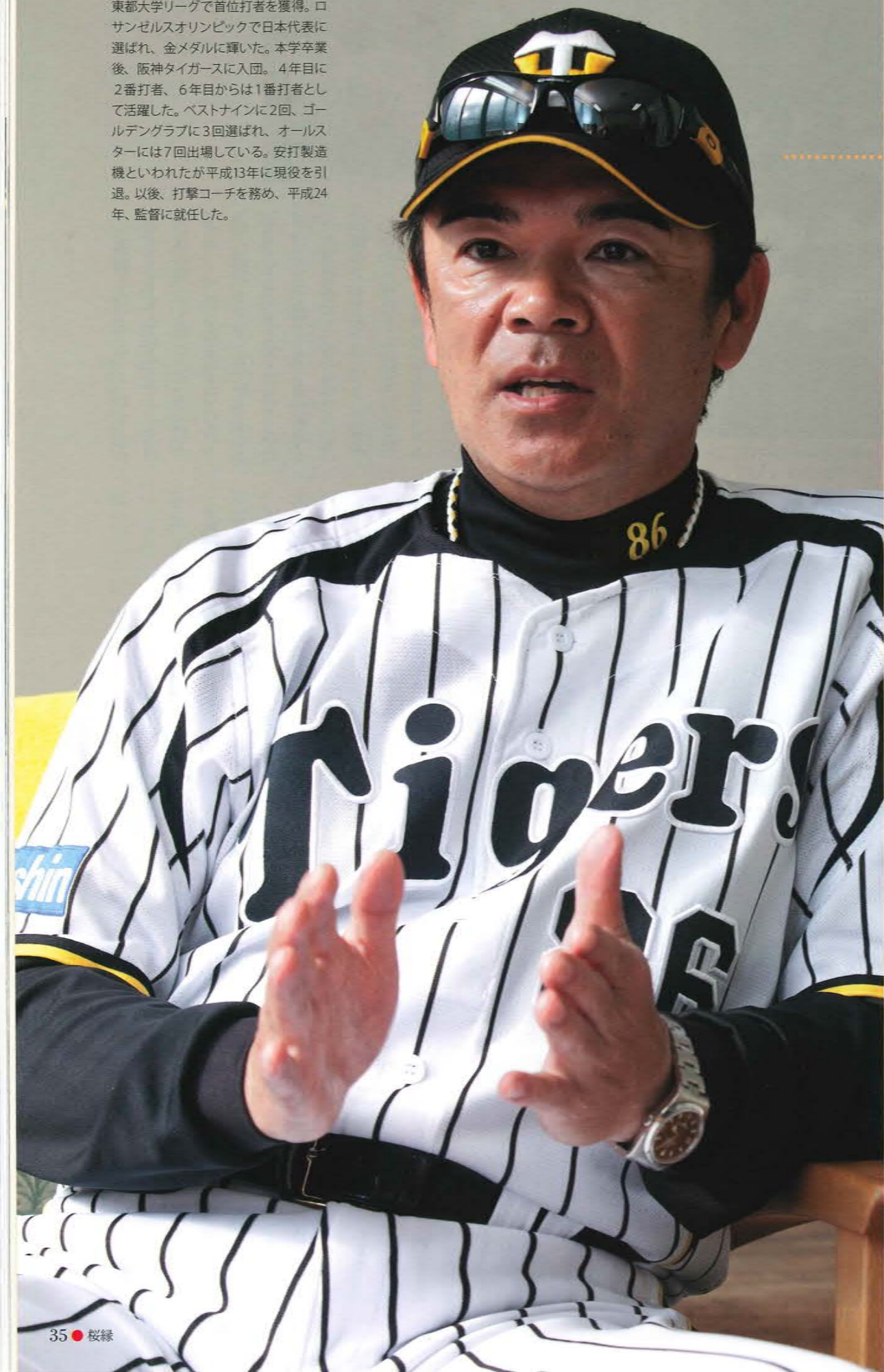
じてしまう。その結果窮屈なバッティングをしてしまうのですね。そんな時、ピッチャーの視点に立って、ピッチャーが今どんな気持ちで

いるか考えてみると、自分の有利さが分かりリラックスできるはずなんです。ただ、ピッチャー交代の決断は

◆プロフィール

和田豊(わだ・ゆたか)

昭和37年千葉県生まれ。本学在学中、東都大学リーグで首位打者を獲得。ロサンゼルスオリンピックで日本代表に選ばれ、金メダルに輝いた。本学卒業後、阪神タイガースに入団。4年目に2番打者、6年目からは1番打者として活躍した。ベストナインに2回、ゴールデングラブに3回選ばれ、オールスターには7回出場している。安打製造機といわれたが平成13年に現役を引退。以後、打撃コーチを務め、平成24年、監督に就任した。





一番難しいですね。一球で流れがガラッと変わりますから。決断がほんの少し遅れたために試合をひっくり返されることはあるし、逆に続投させることで助かることもあり。もちろん、行き当たりばったりではダメで、交代させるための根拠はしっかり持つていなければなりません。けれど、正解がないからほんとうに難しい。要は、いかに代え時の匂いを嗅ぎつけるかでしょうか。



日本大学野球部時代は、東都大学1部リーグで打率.326、4本塁打、22打点、ベストナイン2回。昭和58年の春季リーグでは首位打者になる

「引き出し」を作り
人の気持ちに入る

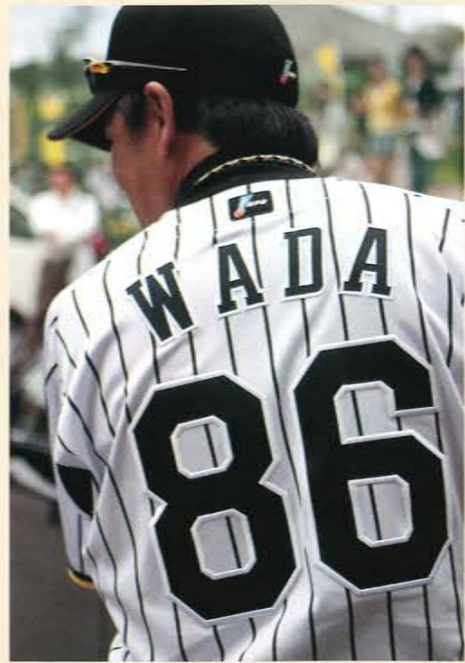
●監督として大切にされていることはどういう点でしょうか？
常に視野を広く持って、自分の中に「引き出し」をたくさん作るかでしょう。采配にはもちろん、選手を指導する際も「引き出し」はたくさんあった方がいい。例えばバッティング練習の時、悩んでいる選手がいたら、まず選手の打ち込む姿を10分、20分、じっと見ます。すると、そのうち、ぱつと表情が変わる瞬間があります。これを見逃さないこと。タイミングよく「今、こういう状態だよ」と言葉をかける。選手は「なるほど、自分はそうなっているんだ」と納得する。そこで信頼関係が生まれるのです。よく「ほめて伸ばす」と言いますが、選手自身はダメだと思っている点を「それでもいいんだよ」とほめてしまったら、「自分のことをしっかり見てもらっていないな」と思われるだけです。言葉というものはその時の選手の心境や状況で、すつと気持ちに入っていく場合と、出て行ってしまう場合がある。いくらこちらがためになると思って言葉をかけても、それが出ていってしまったり、それは選手に合っていないからです。そんな時、「引き出し」をたくさん持つっていると、別の言い方で伝えることができます。いかにコミュニケーションが大切かということでしょうか。



注目度の高いチームだけに球界を代表する人たちがキャンプを訪問

もう一つ監督として大切にしたいことがあります。勝負事ですが生かす結果を出すことが何により大切ですが、後々に生きてくるものもぜひ残したいと思っています。かつて野村克也さんの監督時代、あのID野球というものを残していただいたのですが、野村さんは野球理論だけではなく、社会人としてやるべきことも説いていただきました。それがチームの中で開花したのは野村さんが辞められた後でしたが、指導とはそうあるべきものだと思最近はずくづくと感じています。

野村さんがおっしゃったのは人として成長しないと野球も伸びないということでした。「野球人の前に社会人であれ」ということはとても大切ですね。現代は野球だけやっていけばいいという時代ではありません。努力すれば一流



近くにはなれるでしょう。でも、本当の一流や超一流といわれる選手が、一流近くと何が違うかといえは、それは人格なのです。人格というものがないと、どんなに野球がうまくても野球人として失格でしょうね。日本では野球が人気スポーツであるため、少し人気が出る人に対して「上から目線」で物を言うような勘違い選手がいますが、そんな人は社会人として通用しません。

一つとして相手ピッチャーのクセや配球をとことん研究することになりました。そうしなければ、この世界に残れなかったと思いますし、それが努力だとはいえませんが、いままです。金本選手にしてもウエイトトレーニングを「売」になどしてはなかったはず。やらないと食べていけないと思えば、何とかしなければという気持ちがあるからなんです。

●後輩の学生たちにアドバイスをお願いします。
在学のみならずいろいろな可能性を秘めています。それを忘れないで、どんどんチャレンジしてほしいですね。そのためには、4年間の中でしっかりした目標を持つてほしい。目標があつてこそチャレンジができるし、努力ができるからです。

私は在学中、世田谷にあった野球部合宿所で生活し、野球漬けの毎日を通していました。残念ながら所屬する東都大学野球リーグで優勝できませんでした。プロになりたいという目標は持っていました。しかし、もしプロになれなければ、その時は教員になろうと思ひ、練習は厳しくても授業はしっかり受け、教員の資格



若手選手とは積極的にコミュニケーションをとる

を取りました。キャンパスライフを楽しむという余裕のある学生生活ではなかったのですが、野球と勉強が両立でき、実に充実した4年間が過ごせたと思っています。ただし、人生はいい時ばかりではないのも事実。70〜80%は思い通りにいかないものです。私の座右の銘は「泰然自若」という言葉ですが、そんな時はあつたふたしなないことです。そのためにもふだんから心構えをしていて、準備をしておく。これは監督業にもつながりますね。

●その監督としてのよろこびを最後に聞かせてください。
もちろん、試合に勝つてファンに喜んでもらった時でしょう。私の



着なれたタテ線のユニフォームがよく似合う

和田豊監督の直筆サインボールを抽選で3名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。



一子相伝で17代
芳醇なる水沢うむどん

群馬県渋川市、水澤寺の水澤観音は、伊香保や草津への客が参拝に立ち寄り、緑深い境内には、線香の煙と芳香がたなびている。その門前の一本道に13軒立ち並ぶのが、日本三大うどんの一つ、水沢うどん。なかでも始祖を名乗るのが清水屋である。17代目当主、大河原清一さんは開口一番、

「まずはよそで食べてきなよ」と食べ比べを勧める。ならばと観光バスが止まる店で一杯目の水沢うどんを味わった。空腹だったこともあって、まずくはない。しかし、平凡な麺に濃厚なごま油が勝つてしまい、食べ尽くす前に飽きが来た。

空腹状態で味わえなくなった少々不満を抱え、軒先に美しく切りそろえられた無数のうどんが揺れる清水屋に戻ると、ほどなくしてみよりの酢漬けときゅうりとさきみ海苔に飾られ、つやつやと美しくクリーム色に光る麺が出された。

勧め通りまずはなにもつけずにうどんをすすろうと箸で持ち上げると、心もち食べ慣れたうどんより伸び、唇の当たりもやさしい。ところが口に入れて歯を当てれば一転、驚くほどしっかりした弾力が感じられ、塩味と小麦の香りも口いっぱいに広がる。

「どうだ、これが本場のうどんなんだ」が、声にされなくても伝わってくる。

添えられたごま油に浸してみると、「比べてくれ」と言われた理由は、さらにはつきりする。だしの質か、ごまの割合か。うどんの風味を殺さないバランスのとれた香ばしさは、食べ飽きずあとを引き、飲み干したくなった。

清水屋では一般的にうどんに使う中力粉ではなく、弾力性と粘着性の元となるグルテンが少ない薄力粉を使っているという。

「製粉会社も『うどんになるはずがない粉』と言った」という薄力粉に塩と少量の水だけを加え、添加物も保存料も使わずにここまで仕上げるのが、一子相伝で17代目まで伝わった清水屋の技。こねて、踏んで、寝かせて、また踏んでを繰り返して、のして、切つて、干して…。季節によっては3日にわたる根気のいる作業を、機械に頼らず、指先の感覚と、足の裏の目、を頼りに行っている。こ



始祖 清水屋

群馬県渋川市伊香保町水沢204
TEL:0279-72-3020

大河原 清一(おおかわら・せいいち) 昭和51年経済学部産業経営学科卒業。有限会社清水屋 代表取締役 清水屋17代当主 幼い頃から休みには家業を手伝い、うどんを踏んでいた。本学在学時は保健体育審議会ゴルフ部に所属。卒業後、病に倒れた先代当主である母を支えるため、家業を継ぎ、現在に至る。効率よりも製法を守ることを重視し、販売ではなく製法で切磋琢磨したいと、支店展開やインターネット通販は行わない考え。

有限会社清水屋 1500年代後半創業。創業以来一子相伝で添加物や機械を一切使用しない製法を守り続けている。伊香保に御用邸があった時代から、皇室の方々のご来店や献上も数多い。うどんのメニューはごま油のざるうどん、大もり、中もり、小もりのみ。持ち帰り用の半乾麺を和紙で小分けに包むのもすべて手作業。電話での注文には対応する。



まつゆもこんぶだしから、かつおだし、すりこまに至るまで、すべて完全な手作り。

店を大きくしようと思えば、機械を使うのが早い。インターネット通販でたくさん売ろうと思えば、添加物を使えばいい。しかし、目先の利益を他山の石として本筋を守り続けてきた自信が、清水屋の背骨。

400年以上前に中国帰りの高僧が水澤寺の知己を訪ねた際に、麺打ちの技術とともに「幾世も流れつきませぬ清き泉の清水の如く栄えよ」という言葉を受けたときから、それはかわらない。「うまいものを作るやり方に、進化なんかありません。おかげで指が曲がっちゃったけど」と、思いの外美肌の手を撫でる大河原さんの姿も、どこか誇らしげだ。

🎁 始祖清水屋の「手打ちうどん」おみやげ4人前セットを3名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。

礼讃

ふるさと案内人

坂本 守さん

昭和53年
理工学部土木工学科卒業



なかだえり

◆阿波おどり

徳島県で生まれた盆踊り。その始まりは16世紀、400年以上の歴史を持つといわれる。徳島市の阿波おどりは、毎年8月12日から15日まで市の中心街で開催され、150万人近い人出でにぎわう。期間中JR徳島駅前に「阿波おどり総合案内所」が特設され、演舞場案内、観光、宿泊など各種案内を行っている。(問い合わせ/徳島市観光協会 TEL:088-622-4010)

観ても踊っても楽しめる
400年の歴史もつ夏の風物詩

私の故郷徳島の名物といえばなんといっても8月の阿波おどりで。鉦、笛、三味線、太鼓、鼓などの鳴り物が奏でる「ぞめき」という独特の二拍子のリズム、これを聞くと、徳島県人なら誰もが血が騒ぐでしょう。手を上げて足を運べば阿波おどりというくらい、自然と手足が動くものです。腰を低くしてがに股で進む男踊り、背筋を伸ばし両手を上げて内股で進む女踊りがありますが、いずれも右なら右の手と足を同時に前に出すのが特徴で、全国で親しまれるのも簡単に踊れるからでしょう。でも、見ていて心がときめくような踊りをするには相当の年

季が必要です。阿波おどりは鳴り物と踊り手からなる連と呼ばれるチームによる組踊りが基本ですが、有名連に所属している人たちは、5歳くらいから毎日のように練習に励んでいます。徳島市内では、お囃子の音が聞こえない日はないほどで、それだけに連の先頭に立つ熟練した女踊りの美しさは感動的です。私も以前は有名連や企業連に飛び入りで参加したことがあります。いまはひいきの連の踊りを見るのが毎年夏の楽しみになっています。東京や仙台などさまざまな地域で阿波おどりがありますが、ぜひ徳島で本場の踊りを堪能してほしいですね。その熱気は他では味わえないものです。

もう一つ、水都として知られる徳島の魅力、それは橋です。橋を見るなら徳島へといわれるほど橋梁建設のメッカです。市内の吉野川に架かる「阿波しらさぎ大橋」をはじめ、工法、形状など実にさまざまな橋が架かっています。私のような専門家でなくとも、徳島の橋のある風景はさっとみなさんの心に残ると思いますね。



◆プロフィール
坂本 守(さかもと・まもる) 昭和30年徳島市生まれ。本学卒業後、父親が経営する徳島の橋梁メーカー株式会社アルス製作所に入社。その後関西ピー・エス・コンクリート株式会社(徳島県小松島市)に移り、平成11年より同社代表取締役社長。橋の専門家として一筋に歩んでいる。一般社団法人プレストレス・コンクリート建設業協会四国支部役員、徳島県鉄鋼協同組合理事長などの要職にある。

◆「阿波正藍しじら織」の伝統を継承する長尾敷布合名会社の藍染・阿波しじら織のブックカバーを抽選で3名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。

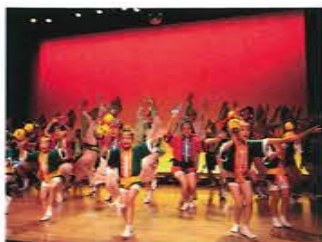
みどころ ●徳島市と周辺



◆大鳴門橋
鳴門海峡にかかる徳島県と淡路島を結ぶ流麗なつり橋。エスカヒルパノラマ展望台から渦潮と大橋を展望できる



◆鳴門の渦潮
徳島市内から車で50分ほど。うずしお観潮船による遊覧で渦潮を間近に見ることができる。大型船と小型水中船がそれぞれ1時間に1、2回出航する



◆阿波おどりの会館
阿波おどりの歴史を学べるミニ博物館をはじめ、1年中踊りの実演が観られる「阿波おどりホール」(250人収容)があり、有名連などの踊りを鑑賞、体験できる。眉山ロープウェイの山麓駅にもなっている



◆阿波しらさぎ大橋
平成24年に完成した吉野川の河口から約1.8km上流にかかる橋。県道29号徳島環状線が通る。橋長1291mは、河川に架かる道路橋としては四国最長。坂本さんの会社も工事にかかわった



◆眉山
「眉の如雲居に見ゆる阿波の山かけてこく船泊知らずも」と万葉集に詠まれ眉山は徳島市のシンボル。標高290mの山頂へはロープウェイなら約6分。市内から淡路島まで一望できる

首長
に聞く

福井県福井市

東村新一

Shinichi Higashimura

子育て環境、安定した仕事、地域の緊密性など、暮らしやすい街の維持には、多方面への目配りが不可欠だ。東村新一市長は、市民と対話しながら迅速に課題の解決を図ろうと努めている。同時に、不可欠なのが街の活性化。市内の環境を整えながら、その活力を外部にも発信することで、「かえりたくなるまち」の構築を目指している。



福井駅西口の再開発で
市中心部の魅力を向上

来年度、東京・金沢間が開業する北陸新幹線。さらに11年後には福井県敦賀市まで延伸し、関東圏との距離が大幅に縮まる予定だ。それに合わせ、福井市ではJR福井駅西口の再開発を進めている。副市長時代からその計画に携わってきた東村新一さんに

市長

昭和50年法学部
法律学科卒業

実現させたい課題
となっている。

「福井市でも郊
外型の生活が一般
的になり、市の中心
部から離れてしま

う人が増加したことで、駅前はかつてほど活気がなくなっています。平成30年には福井しあわせ元気国体が開催され、全国から多くの関係者が来県します。また、新幹線のお客様をお迎えしたとき、玄関口である駅前のにぎわいがなくては、市のイメージダウンにつながりかねません。そこで、駅周辺エリア一帯の魅力を高めることで、中心部への回帰をうながしたいんです」

北陸新幹線の開業を視野に
福井市の存在感を高める



3年後に完成予定の再開発ビルには、プラネタリウム、多目的ホール、観光関連施設などを備え、福井市のもつポテンシャルを内外に発信する予定だ。同時に、西側にある中心商業地と、すでに再開発が完了した東側とのスムーズな動線を結び、この街に住む人や街を訪れる人の交流を活性化させる。活気あふれる街への変貌を、市民も期待に満ちた目で見守っている。

住みやすさのアピールと

職員や市民との対話を重視

昨年度にスタートした第六次福井市総合計画で掲げたスローガンは「自然・活気・誇りにみちた人が輝く かえりたくなるまちふくい」。市民にとっては住み続けたい街、市外の人にとっては住んでみたい街、市を離れた人にとっては帰りたい街にしようとの思いをこめた。

「福井市は著名誌が発表する『住みよさランキング』で毎年高い評価を得ています。その背景には、共働き世帯、二世帯同居率、経営者率などが高く、子育てや就業環境などに優れている点がある

でしょう。実際、女性が働きやすい土地として引越してこられる人もいます。より多くの方に住していただけるよう、これらの利点を積極的にアピールしていきたい」

福井市は有為な人材の輩出でも知られる。さかのぼれば松平春嶽や橋本左内ら進歩的な政治家、近年ではノーベル賞受賞者の南部陽一郎氏などがおり、現在も全国的に高い教育レベルを維持している。東村さんは、その伝統を継承すべく、教育環境の整備にも力を入れている。

また、全市をあげて活力ある街にするため、職員や市民とのコミュニケーションにも積極的だ。市政運営にあたっては、部課長クラスだけでなく実際の担当者も会議に参加させ、自身の考えを伝える。市民との対話の場「あじさいトーク」も設け、率直な意見交換を行っている。

「かぶらから菜種まで」と言いますが、職員一人ひとりに目をこらし、十分に私の方針や考えを説明することで、市民のみなさんによりよい行政サービスが提供できる。その効果が現れたのか、最近では職員が熱心になったというお

声もいただいています。市長として、一番うれしい言葉です」

市の将来を見据えながら街のリニューアルを推進

もともと政治家になるつもりはまったくなく、出馬の要請を受けたときは「50歳をすぎて、大きく人生が転換することもあるのだな」という驚きでいっぱいだった。それだけに、支持者の獲得が急務だったが、市役所、県庁、県全体の3つの校友会を軸に、日本大学の出身者が多方面で応援してくれた。そのありがたさは、いまでも忘れられない。

「日本大学さまさまと思っただけがもう一つ。県職員になって間もない頃、上司から元気のなさを叱られたんです。それならと、飲み会の席で歌詞を福井版に変えて日大節を披露したら、これが大受け（笑）。以来、私の持ち芸になり、いまでもときどきやります。全国の首長が集まる桜門会でも披露しました」

福井市は震災、震災による壊滅的な打撃から復興したが、すでに60年余りが過ぎ、市全体がリニューアルする時期を迎えている。そこで今年、県と福井市が共同し「県都デザイン戦略」を策定。2050年を見据えた街づくりに



取り組み始めた。

「現在県庁のある福井城址をさらに整備し、より魅力的な公園にするなど、市内外にアピールできる場所をさらに増やしていく予定です。現在はその準備期間であり、やるべきことをしっかりとやって次世代に引き継ぎたい。さらに職員と市民の絆を深めながら、福井市の発展に尽力してまいります」



8

福井名産の小黒黒屋の「和蠟燭」2本セットを抽選で2名さまにプレゼント。詳しくはP60をご覧ください。



4



2



5



3



6



1

- ① 北陸新幹線開通を見据え福井駅西口の再開発事業が進んでいる
- ② 福井市役所
- ③ 福井城址。県庁がおかれている
- ④ 市民の足となっている路面電車
- ⑤ 柴田勝家ゆかりの北の庄城址・柴田公園
- ⑥ 足羽山中腹から市街をのぞむ
- ⑦ 春は花見でにぎわう足羽川の桜並木（日本さくら名所100選）
- ⑧ 東村市長自ら市民と対話する「あじさいトーク」

◆福井市 戦国時代、朝倉氏が本拠とした地であり、その遺構は一乗谷朝倉氏遺跡として残る。同遺跡は国の特別史跡、特別名勝、重要文化財の三重指定を受けた名所。柴田勝家が福井の地に城を構えると城下町として栄え、その歴史・文化は現在も生活に息づいている。越前ガニに代表される、四季折々の味覚も魅力。

◆プロフィール

東村 新一（ひがしむら・しんいち）昭和27年福井県生まれ。本学卒業後、福井県職員に採用。31年間にわたり、行政マンとしておもに人事を担当した。その経験が、トップとして職員モチベーションを上げる職場環境づくりに活かされている。平成18年、当時の福井市長から要請を受け、副市長に就任。その1年半後、後継者として市長選に出馬し、当選を果たした。教員をしていた妻のスズミシの飼育を手伝うのが趣味の一つ。



先輩に・
INTERVIEW
インタビュー
ブライダル
の仕事

時代とともに変化してきた男女の価値観。結婚そのものや、結婚式のスタイルに関しても、多様な考え方もつよくなりました。そうした中、結婚式という人生の大きな節目に立ち会い、その儀式をプロデュースするブライダルの仕事、とりわけウエディングプランナーは、今、就活に勤しむ学生の間で脚光を浴びる人気職種のひとつです。

今回は、文理学部社会学科で学ぶ高林夏希さんが、会員制結婚式場「綱町三井倶楽部」でウエディングプランナーとして活躍している笠野恵里さんにインタビュー。また、さまざまな形態の結婚式場で仕事をされている校友の皆さんに、現代ブライダル事情と、ウエディングプランナー、ブライダルアドバイザーの仕事についてうかがいました。

写真/八芳園 オリエンタルチャペル



Takuya Inada

Hitomi Suzuki

Akiko Kitada

Eri Kasano



卒業後は、志望どおりに造園デザインの事務所に就職。会社の理解もあり、現在は観光庁による外国人観光客誘致キャンペーンのスペシャルサポーターを務めるなど、ミス日本としての活動を優先して行っている。

応募者2,825人の中から見事栄冠を勝ち取り、45代目の「ミス日本グランプリ」に輝いた鈴木恵梨佳さん。日本大学では、鈴木恵理さん（平成22年文理学部卒業）に次いで2人目の受賞者となった。

在学中は生物資源科学部で造園・緑地学について学び、造園デザインの仕事を目標していた。農場実習ではつなぎを着たり、チェーンソーで木を切るなど、今の姿からは想像できないことも数多く経験した。

「ミス日本になれればいろいろな経験や多くの人との出会いを通じて、ご縁を広げられるし、仕事に必要な発想力やインスピレーションが養えるのではという思いで、コンテストに挑戦してみたいです」

最終審査での1分間スピーチは、自分では納得のいく出来で悔いなく終わったというが、グランプリ発表では最後まで自分の名前が呼ばれず、落選を覚悟した。



2013年度
「ミス日本グランプリ」受賞者
鈴木 恵梨佳さん

平成25年生物資源科学部
植物資源科学科卒業

◆プロフィール

鈴木 恵梨佳(すずき・えりか)
平成2年東京生まれ。日本大学鶴ヶ丘高等学校時代には、野球部の甲子園出場に伴い、チアガールとして応援の思い出も。大学では造園緑地学研究室で、庭園や公園の設計デザインについて学ぶ。生物資源科学部の「ミスキャンパス」(平成22年)や「東京きもの女王」(平成23年)の受賞に続き、平成25年1月28日「ミス日本グランプリ」を受賞。

「ご縁を大切に」を
モットーに、活動の幅を
広げていきたい

夢に
向かって!

「最後に名前が呼ばれたときは、驚きとうれしさで、それまでこらえていた涙があふれました」と、受賞の瞬間を振り返る。審査委員長からは、会話の間や立ち居振る舞いなどに、日本女性ならではの奥ゆかしさが感じられ、評価されたという。

今春の卒業式では、総長賞も受賞。「私にとって、日本大学での4年間はいろいろな転機が詰まっていた。友達や先生方とのご縁がなかったら、今の自分はなかったと思います。今思えば宝物のような4年間でした」

今後は、海外の方のおもてなしをするための空間を緑を使ってプロデュースしたり、ボランティアや社会貢献活動にも力を注ぎたいという。

「東日本大震災のときは、何もできず歯がゆい思いをしました。今なら、ミス日本のネームバリューというか、ご縁を生かして、さまざまな分野で活躍されている日本大学OBの方々を巻き込むなどして、役に立てると思うんです」と今後の抱負を語った。



高林夏希（文理学部社会学科4年）さんが
ウエディングプランナーの笠野恵里さんに聞く

二人の結婚式の 一番の理解者になり 記憶に残る 大切な瞬間を作り上げる

文理学部4年の高林夏希さんは、現在就職活動中。姉の結婚式に参列したときにその華やかな雰囲気魅せられ、幸せな時間を作り上げるブライダルの仕事に興味を持った。もともと接客業に関心が高かった高林さん。ウエディングプランナーとして活躍中の笠野恵里さんを訪ね、ブライダルの仕事の様子、接客の姿勢など、人気職業のリアルなお話をうかがった。

従兄の結婚式をきっかけに
憧れのブライダルの道へ

「ウエディングプランナー」と聞くと、華やかなイメージが思い浮かぶのですが、具体的にどのようなお仕事なのでしょう？

インターネットや雑誌などを通して当館に興味を持っていただいた方が来館された際、まず施設をご案内し、その後、ご希望がうかがいながら空き状況や費用の話をしていただきます。もし気に入ってご成約をいただければ、結婚式の3カ月前から打ち合わせがスタートし、挙式・披露宴の段取りや演出を相談しながら決めていきます。結婚式当日は基本的に現場スタッフの担当なのですが、私は新郎新婦の様子がつい気になって、当日もなるべく立ち会わせてもらっています。

緊張されているお二人に代わって、会場やゲストの様子を確認して、披露宴後にお二人にお伝えすると喜んでいただけます。これが大まかな仕事の流れです。

華やかなイメージといえは、実は私もこの仕事に興味を持ったきっかけはそこなんです。大学2年生のときにゲストハウスで行われた従兄の結婚式に列席したのですが、その華やかさに結婚式の固定観念がガラッと変わりました。列席者全員で願いを込めて風船を空に放つ「パルーンリリース」、緑美しいお庭で

「網町三井倶楽部」
ウエディングプランナー
笠野 恵里さん
平成18年
商学部商業学科卒業



◆網町三井倶楽部
東京都港区三田2-3-7
<http://www.tsunamachimitsuiclub.co.jp>
本館は鹿鳴館を手掛けたジョサイア・コンドル博士の設計。三井グループの会員制倶楽部で、婚礼は倶楽部会員またはその紹介者のみ利用が可能



インタビュー
高林 夏希さん
文理学部社会学科4年

提供される色とりどりのデザートなど…。胸躍る演出の数々に「こんな素敵な雰囲気のおかげで働けたらいいな」と思いました。折しも、当時はジェファー・ロペス主演の映画「ウエディング・プランナー」などの影響で、日本でも憧れの



E r i K a s a n o

◆プロフィール
 笠野 恵里(かさの・えり)
 昭和58年東京都生まれ。本学卒業後、フタバウエディング(株)に入社し、「目黒雅叙園」をはじめ、系列のゲストハウスでウエディングプランナーとして勤務。平成24年、さらなる活躍の場を求めて「綱町三井倶楽部」に転職。これまでに約500組の結婚式を手がける。

ターナーの油彩画など、美術館さながらの調度品が迎えてくれる

職業として脚光を浴び始めていました。

「そんなんですか! では、プランナーの仕事に興味を持ってから、何が行動されたのですか?」

はい、とにかく情報を集めました。そこで「ウエディングプランナー養成講座」というのを見つけ、週1回、1年間通いました。主に社会人の方が通う講座でしたが、現役のプランナーが講師を務め、現場のこと、結婚式のトレンド、テーブルコーディネートの実践などを教わりました。就職活動が始まると脇目も振らず、ブライダル業界一本! 幸い希望した企業に内定をいただき、「目黒雅叙園」で6年勤務の後、スタイルの違う場所でキャリアを

磨きたいと思い、1年前に「綱町三井倶楽部」に転職しました。営業マンでありよりき理解者何気ない会話から信頼関係を築く

「転職して施設が変わると、同じプランナーの仕事でも違うものですか?」

仕事の内容は基本的には変わりませんが、施設が変わるとお客さまに対するアプローチの仕方が変わってきます。たとえば、当倶楽部本館は、三井家の迎賓館として大正2年に建てられた歴史的な西洋建築です。館内にはロダンの彫塑、ターナーの油絵ほか美術館さながらの調度品が展示されていますので、私たちがあれこれ説明するよりも、見て感じていただくことが何よりも強いアピールになります。しかし、以前ゲストハウスに勤務していたことがあるのですが、そのときは、会場の力だけではなかなか決めていただけませんでした。会場としてアピールできる割合は1〜2割で、それ以外のところで満足していただくために、お客さまの要望を引き出すことが求められました。見学にいらっしゃるお客さまは

多少なりとも緊張されていますから、何気ないおしゃべりに糸口を見つけてご要望を引き出していく。そこで少しでもお客さまの気持ちを解すことができれば、徐々に信頼関係を築くことができます。また、そういうやりとりから演出のプランが浮かんだりすることもありますね。

「なるほど、お客さまのご案内も奥が深いんですね。では、式場が決まると、今度は演出などの相談ですね。近年はどのようなスタイルが人気ですか?」

東日本大震災をきっかけに、大切な人との絆を再確認する「絆婚」という言葉が生まれました。この流れから披露宴は、小規模スタイルで、ご家族やご友人に「感謝を伝える場にした」と考える新郎新婦が増えました。

最近の演出のキーワードは「アットホーム」。新郎新婦がメインテーブルに座っているだけではなく、客席を回っておしゃべりしたり、写真を撮りに回ったり、ゲストのスピーチもかきこまったスタイルではなく、何人かでご自分の席からお話したくとか。これまでの形式にとらわれず、カジュアルで

動きのあるスタイルが多くなっています。

「プランナーとして大切にしていることはどういうことでしょうか。また、喜びを感じるときはどんなときですか?」

ウエディングプランナーというのは、営業マンであり、お一人の結婚式に対しての一番の理解者だと思っています。不安があれば、いち早くくみ取って解消してあげなくてはなりません。結婚式は、「高価な買い物」です。演出も5万円、10万円という単位で、通常の生活の中では簡単に出来るような金額ではありません。「そういう高価なものを扱っているのだ」ということは常に肝に銘じています。お客さまも十人十色。プランナーとしてお客さまの立場に立ち、お客さまそれぞれに合った提案ができるよう心掛けています。

喜びを感じるのには、やはりお客さまに喜んでいただけるときです。担当したお二人から披露宴の後に「人生の大きな節目である結婚式に笠野さんが関わってくださってうれしかった」という内容のお手紙をいただいていた感激しました。私たちの仕事は黒子ですが

ら前に出てはいけなく、ましてや感情移入して泣いてもいけない。それでも時々泣いてしまうんですけどね(笑)。人の記憶に残る大切な瞬間を作るお手伝いができると、ほんとステキな仕事です。

人気職業の厳しい現実 経験の幅はプランナーに有利

「結婚式場に就職すれば、すぐにプランナーになれるものなのでしょうか?」

私が入社したときは、30人近くいる同期のうち7割が女性で、ほぼ全員がプランナー志望でした。そのうちプランナーに配属されたのは3人。残りの人は総務やサービス関連の部署に配属になりました。それが現実です。しかし、別の部署でも接客の勉強はできますし、さまざまな経験を積んでからプランナーになっても遅くはありません。むしろ、その方が柔軟性に富んだ提案ができる可能性もあります。

近年はブライダル会社が人気企業に選ばれていますし、人気の職業ゆえの厳しさがあると思います。それでも、なりたい気持ちがあるなら絶対にあきらめないでほしいです。

「最後に後輩へのアドバイスをお願いします。」

学生時代、私は応援リーダー(ディップーズ)に所属していました。結成1年目はインカレに出場するも最下位。それから練習スタイルを試行錯誤し、メンバーが一致団結して猛練習しました。その甲斐あって、1年後には決勝進出の常連チームに成長。私はこの経験から、どんなときもあきらめないで前に進むことの大切さを学びました。生きていけば辛いこと、壁に当たることは多々ありますが、この経験のおかげでいつも強い気持ちで前に進めることができます。今の仕事を続けられるのも、応援リーダー部で鍛えられた精神のおかげだと思っています。皆さんも、どんなことでもよいので無我夢中でがんばる経験ができるよう、少しでも気になったことは突き詰めてみてください。社会人になってから、必ず役に立ちますよ。

「残りわずかな学生生活ですが、私も何かに一生懸命取り組んでみたいと思います。今日はありがとうございました。」



大正2年以来、三井家の迎賓館として公賞や国賞をもてなしてきた本館。大階段は三井家の婚礼のお披露目のセレモニーで使われた。現在もこの階段から腕を組んで登場するセレモニーは人気の演出だとか

インタビューを終えて

今回、お話を伺って感じたことは、「お客さまの立場に立って物事を考えることの大切さ」です。何気ない会話からご要望を引き出し、人生の最大のイベントを最高のものにするために一緒になって考えるということ、そのために信頼関係を作っていくということがとても印象的でした。お二人にとって必要なものだけ提案し、必要のないものは提案しないという真摯な気持ちがあるからこそ、信頼関係を築くことができるのだと感じました。

また、無我夢中で何かに挑む経験が心を強くしてくれたという笠野さんの経験談に、私も残りの学生生活を大切に、社会に出てからも強く前向きにがんばろうと思いました。

先輩に INTERVIEW インタビュー

大学入学後から京王プラザに入社する直前まで、学生時代ずっと赤坂のホテルの宴会場でアルバイトをしていました。さまざまな宴会で実際にお客さまへのサービスを行っていたのですが、中でも結婚披露宴では幸せあふれる空間をスタッフの一員として体感でき、とても楽しく感じたのです。

そんなことから就職はホテル業界、しかも宴会場関係しか考えられませんでした。しかし実際に入社してみると、3年はどプライダルとは関係のない業務が続き、その後希望していたプライダルの打ち合わせ担当に異動となったのです。私の場合は、宴会全般に興味があったので続けてこれましたが、どうしてもプライダルということであれば、結婚式場やプラ



近年は和装での挙式も増えており、厳かな神前式も人気という。北田さん自身も神前式で結婚した

学生時代から披露宴の幸せな空間を体感プロとして安心できるサービスやプランの提案に喜びを感じる

A k i k o K i t a d a



東京都庁をはじめ新宿の超高層ビルを間近に望むカリヨン。ここで新郎新婦が鐘を鳴らしたり、色とりどりの風船を放したりする

株式会社京王プラザホテル
チーフセレクションクラーク

北田 明子さん

平成13年
法学部管理行政学科卒業

◆プロフィール
北田 明子(きただ・あきこ) 昭和54年東京都生まれ。日本大学鶴ヶ丘高等学校卒業。本学卒業後、株式会社京王プラザ入社。平成16年から19年まで、ウエディングプランナーとして活躍。現在は主に法人向けバンケット業務を担当するほか、ウエディングフェアなど新規対応をおこなっている。
●京王プラザホテル 東京都新宿区西新宿2-2-1
<http://www.keioplaza.co.jp/>

イダル業界といわれる職種への就職がベストかもしれない。とにかく何がしたいのかを明確にしておくことが大事だと思います。

いらつしやるお客さまはさまざまです。それに対応するため、仕事の内容は毎日違いますし、やりがいもあります。披露宴を考えているお二人にとっては初めてのことであり、一度きりのことですので、いろいろとやりたいことがあると思うのですが、限られた時間の中で滞りなく進行できるように、プロ

としてアドバイスします。その際は、ゲストの目線、招待客の立場で説明することが多いですね。

京王プラザでのウエディングの特長は、ホテルとしての総合力だと思えます。宿泊はもちろん、早く会場に着いても待ち時間を過ごす場所が多数ありますし、着付けも館内でできるなど、ゲストの方にも充実したサービスを提供

できます。

ここ数年、結婚される方の年齢層は上がっています。ゲストの方の年齢も高くなりますので、自然と恥ずかしくない披露宴、安心できる披露宴を望まれるカップルが増えています。そのようなご希望に応えられる式場として私どものホテルをお選びいただいているのではないのでしょうか。

結婚式場は、

夫婦のスタートの場所 いつまでも心に残る 居心地のよい存在でありたい

大学1年生のときに出席した従姉妹の結婚式で、会場を満たす幸せな雰囲気を感じ、プライダルの仕事に興味を持ちました。間もなくゲストハウスで披露宴を

手伝うアルバイトを始めましたが、とにかく楽しくて1日があつという間でした。ここまで夢中になれることを仕事にできればどんなに素晴らしいだろうと進路を決め

ました。

私の仕事は、ホームページや雑誌で八芳園に興味を持ってくださったお客さまに施設をご案内し、ご要望をうかがい、それに添ったご提案をすることです。大切にしているのは、いかにお客さまの心に届く案内をするかということ。積極的に質問される方、ピンポイントで情報を得たい方、午前中に1軒見学済みでお疲れの方などお客さまはさまざまです。表情、しぐさ、声のトーンなどから

求められているものを判断し、ご案内のルートを調整します。

ご案内したお客さまがご成約された際、場合によっては式と披露宴のお打ち合わせも担当します。この段階で披露宴の演出などのご提案もさせていただくのですが、ちょっとした会話に演出のヒントが隠れているので、他愛無い会話も聞き逃せません。たとえば、初デートが水族館だったとお話になったらお二人には、料理のお皿にソースで魚を描く演出をご提案し、とても喜んでいただきました。

私はまだ、先輩方にアドバイスを請うことも多いのですが、お一人の声に耳を傾け、ご要望に対していかに具体的なご提案をできるかがこの仕事の難しさであり醍醐味だと思います。

株式会社八芳園
ブライダルアドバイザー
鈴木 ひとみさん

平成24年
法学部管理行政学科卒業



樹齢数百年の樹木や渡り鳥の姿も見られる、白金台の由緒ある日本庭園。婚礼を控えた新郎新婦が撮影する姿も

先日、私が初めて担当してご成婚されたお一人から、「鈴木さんのおかげで安心して当日を迎えられました。これからもその笑顔でたくさんの人を幸せにしてください」という手紙をいただきました。どんなに元気づけられたことか。訪れるお一人にとって居心地がよく、結婚後もときどきお顔を見せに来ていただけるような、そんな存在になりたいです。

H i t o m i S u z u k i

◆プロフィール
鈴木ひとみ(すずき・ひとみ) 平成2年神奈川県生まれ。本学卒業後、八芳園に入社。3カ月の研修を経て、新規の顧客案内を担当する「ブライダルアドバイザー」になる。提案力を磨くために情報収集は欠かせない。職場主催の講習会にも積極的に参加して日々センスを磨いている。
●八芳園 東京都港区白金台1-1-1 <http://www.happo-en.com/>

「結婚式はスタート。これから50年先もずっとお二人の人生のお手伝いをさせていただきたい」という八芳園の取り組みに共感した鈴木さん



書籍紹介



クラシック・レコード デザイン集
ロシア&ポーランド編

著者/綾部徹之進

レコードコレクター
平成5年芸術学部演劇学科卒業

●発行/ディスクユニオン 価格2,500円(税別)

海外コレクターや博物館も垂涎のレコードを所有する著者のコレクションから、旧共産圏の貴重なレコードジャケットを写した美しいアートブック。ロシアの上流階級層(共産党)用に生産された“幻のデザインジャケット”や前衛芸術を思わせるポーランドのレコードジャケットなど、興味深いものばかり。「レコードにすべてを捧げる」ために長年勤めたテレビ局を退社した著者の面目躍如となる一冊。



宮脇俊三と旅した鉄道風景

著者/櫻井寛

フォトジャーナリスト
昭和51年芸術学部写真学科卒業

●発行/ダイヤモンド社 価格2,000円(税別)

国鉄全路線完全乗車を記録した『時刻表2万キロ』などの著作で知られる紀行作家・宮脇俊三氏。著者は、1992年のスイス・英国の登山鉄道の旅から、宮脇氏最後の海外旅行となった1999年の英国鉄道の旅まで、8年間、5度にわたる宮脇氏の鉄道旅に同行。その旅の思い出を当時の写真とともに再現したのが本書である。鉄道を愛した二人のコラボレーションであり、著者から宮脇氏へのオマージュとなっている。



日本酒テイasting BOOK 西日本編

著者/葉石かおり

エッセイスト・酒ジャーナリスト
平成元年文学部独文学科卒業

●発行/榎(えい)出版社 価格1,200円(税別)

滋賀県以西の133の酒蔵から各3本をチョイス、全399本をテイastingし、日本酒事典としてまとめられている。各銘柄の味わいはもちろん、日本酒を食中酒として楽しんでもらいたいという思いから、その酒に合う家庭料理も併せて紹介。真摯に酒と向き合い、淡々と酒を語る著者の姿勢からは、酒への限りない愛が感じられ、東日本編の刊行にも期待がかかる。なお、著書は本誌「旅、今宵のお宿」(P27参照)のライターとしても活躍中。



駅弁女子 — 日本全国旅して食べて

著者/なかだ えり

イラストレーター
平成9年生産工学部建築工学科卒業

●発行/淡交社 価格1,300円(税別)

本誌「ふるさと礼賛」(P40参照)のイラストでもおなじみの著者が、日本全国を旅して食べた約100もの駅弁を紹介。味、見た目、郷土色を基準に選んだ駅弁10選のほか、「かに」「とり」などの食材別、パッケージがユニークな駅弁などを、得意のイラストと文章で紹介。さらに駅弁工場見学ルポや、マニアならずとも手に入れたくなる駅弁グッズなど、駅弁にまつわる情報も満載。本誌22号の駅弁特集で駅弁に興味を持った方、ぜひご一読を!



先輩に
INTERVIEW
インタビュー



私が勤めている「パレスグランドール」は、総合結婚式場として今年で52年目を迎えました。「い

パレスグランドール
ウエディングプランナー

稲田 卓也さん

平成18年
商学部会計学科卒業

T a k u y a I n a d a



ブライダルは単に商品を販売するビジネスではなく、「目に見えないお二人の気持ちをカタチにする仕事」と語る稲田さん

奥深いところにある
両家の気持ちをくみ取り
感動のセレモニーを上げたい

「人生で一番大きなセレモニーに携わることができるのがウエディングプランナーという仕事の最大のつもろがテーマです」をモットーに、これまでたくさんのお祝いを見守ってきました。儀式文化を大切に、時代のニーズに合わせた披露宴、進行の提案、ゲストへのサービスを心がけています。

魅力です。お客さまと一緒に喜んで喜び、感動し、人生の新たなスタートとなるセレモニーを作り上げています。100組あれば100通りの結婚式があり、同じもの一つとしてありません。新郎新婦はもちろん、親御さん、ご家族の奥深いところにある気持ちをくみ取り、結婚式・披露宴としてカタチにすることを心がけています。

都会だとお二人で挙式の打ち合わせを進めていくことがほとんどだと思えますが、山形では両家の親御さんも参加されます。打ち合わせも10回以上になることも珍しくありません。6人それぞれ意見をまとめながらプランを練っていくのはなかなか大変です。決定権はどなたにあるのか、見極めるのが重要な点です(笑)。

当館では、年間約500組の挙式が行われます。私もこの仕事に就いて丸7年、これまで500組ほどを担当させていただきました。お一人や親御さんからの感謝の言葉はもちろんですが、ゲストの方が感動して涙を流されたときや、「いい結婚式だった」という声を聞くとなおさらうれしいです。この仕事をやってきてよかったなと思います。

プランナーの仕事にゴールはありません。ブライダル関連だけでなく、日常生活のすべてからアイデアを取り入れ、お客さまのために何ができるかを考えるなど、常に成長が必要です。私の友人、知人の結婚式は、可能な限り自分のプランで挙式してもらおうということが私の夢です。

◆プロフィール

稲田 卓也(いなだ・たくや) 昭和58年山形県生まれ。高校までは山形市で過ごす。本学卒業後、地元に戻り、株式会社ジョインに入社。山形随一の規模と格式を誇る総合結婚式場「パレスグランドール」のウエディングプランナーとして、年間70組の結婚式・披露宴を担当している。

●パレスグランドール 山形県山形市荒橋町1-17-40
<http://www.palace-net.co.jp/palace/>



蔵王連峰が見渡せる敷地の一面に建つ「チャペルエルシオン」にて。牧師によるカウンセリングから始まる、プロテスタントの本格的な挙式が行われる

日本大学校友会 宮崎県支部

日本大学校友会 栃木県支部



平成24年度日本大学校友会宮崎県支部総会(ホテルメリーージュ)



総会後、小浜正子文理学部教授(中国語 中国文化学科)による講演会を開催

当支部は昭和32年に会員名簿を整備し、部の規約もつくっています。ただ、昭和27年には工科校友会が発足していますし、それ以前もOBが集まって活動していたと聞いていますので、昭和20年代前半に支部の源流があるといっているように。

現在の県支部の会員は130名あまり。毎年1月の第4土曜日に開く総会が活動の中心ですが、常時100名以上が出席し盛会となっています。ほかに懇親ゴルフコンペを年2回開催。また、支部の九州ブロック会には必ず出席し、各支部との交流を深めています。

その席で他支部からつらやましながられるのが40歳代の会員が多いことです。これには宮崎日本大学学園の存在が大きいかもしれません。教職員や事務職

員、講師などに本学OBが多く会員になつてもらっているのに加え、学園内に置いた支部事務局が活動の拠り所になっており、立ち寄りやすい雰囲気も生んでいるように。

とはいえ、課題はやはり会員を増やすことですね。特に女性会員と県内各地の会員をもっと募りたいと思っています。対策として若い女性会員に幹事になっていただき支部に対する親近感を醸成する工夫、高千穂や日向といった地方に積極的に出向いてOBと交流を重ね、支部の存在をアピールしています。

うれしいのは、県下の会社社長の出身大学で一番多いのが本学だということ。それぞれ本業と共に地域に貢献していただいているようで、支部としても誇りに思っています。



若友 慶二支部長(右から4人目)

昭和38年通信教育部経済学部卒業

◆プロフィール
若友 慶二(わかとも・けいじ) 昭和11年宮崎県生まれ。本学卒業後、宮崎県庁に入庁。県商工労働部長などを歴任後、平成7年、宮崎空港ビル取締役就任。同年、宮崎日本大学学園監事も務める。平成13年、同学園事務局長・理事。翌年、理事長・事務局長に就任し、現在に至る。(右から幹事長の日高安隆さん、副幹事長の森秀樹さん、常任幹事の矢野三千宏さん、若友支部長、参与の後藤信一さん、事務局長の中山清信さん)



大塚吉兵衛総長(当時) 就任を祝う会も兼ねた平成23年度校友会栃木県支部総会



栃木県支部桜餅会総会・研修会で講演する 福田富一支部長(県知事)

栃木県支部は昭和30年代、元参議院議員で総務庁長官を務められた岩崎純三さんが音頭を取って発足したと聞いています。その後、私も含め県庁、市役所などに卒業生が多く、また、県下の政治、経済、教育分野のトップに日大OBが活躍していることから、非常に組織づくりが円滑に進み、現在、会員数約500名にまで発展しました。

また平成23年に栃木県出身の大塚吉兵衛先生が日本大学総長(現学長)に就任されたことで、会員も大いに盛り上がり、その年の支部総会は大塚先生の総長就任を祝う会を兼ねて催し、大盛況でした。総会は、例年6月に開催しており、約120人もの会員が集まります。とくに著名な校友をゲストに招いて

講演会を開催し大変好評です。今年は、やり投げの第一人者として活躍する村上幸史選手においでいただきました。

栃木県の特長は、一番新しい佐野を含め、県北、小山・野木、足利の4つの地域支部を置いていることです。年1回の総会だけではなかなか交流が広がりませんが、身近な地域ごとであれば親交を深めやすい。今後も地域支部の充実を支援していきたいと考えています。学部支部会も16学部すべてにあり、それぞれが研修会などの集まりを開催しています。地域と学部の支部会が緊密に連携しながら、会員同士の絆を深め、今後は、若い世代や女性の参加もより積極的に進めていきたいと考えています。



福田 富一さん(写真右)

昭和54年理工学部建築学科二部卒業

◆プロフィール
福田 富一(ふくだ・とみかず) 昭和28年栃木県生まれ。地元の工業高校を卒業後、栃木県庁に入庁。建築行政に携わる中で政治家を志すようになり、在庁のまま21歳で本学入学。卒業後2年で退庁し、昭和58年、宇都宮市議会議員に初当選。以後、県議会議員、宇都宮市長を歴任し、平成16年、栃木県知事に就任。現在3期目を務める。写真左は、事務局長の塚田典功さん(昭和57年松戸歯学部歯学科卒業)。

第3回校友会公式ポスター大賞授賞式

本校校友会では、スポーツ振興を活性化し応援するため、「日大スポーツ31部のイメージアップ」を題材としたテーマのポスターを募集したところ、89作品の応募があり、厳正な審査の結果「第3回校友会公式ポスター大賞」(スポーツ振興特別委員会主催)授賞式が6月24日、日本大学校門会館「桜ホール」で行われました。

最優秀賞に輝いたのは、生産工学部4年・原田伶さんの作品「スポーツから生まれる絆」。原田さんには、野田芸術学部長・審査委員長から記念の盾と賞金20万円が贈られました。

このほかの受賞者は次のとおり。

- 優秀賞2作品
芸術学部2年/土屋 真子、芸術学部3年/檜谷 純
- 佳作2作品
芸術学部3年/伊東 亜友里、大学院生産工学研究科2年/高橋 潤
- 校友会長賞
生産工学部3年/和久 卓磨



最優秀賞を受賞した原田伶さん



受賞者にはそれぞれ記念の盾と賞金が贈られた

平成25年度 日本大学全国校友大会開催のお知らせ

全国の校友の皆さまにご参加いただき、毎年盛大に催されている全国校友大会が、今年も11月11日(月)に開催されることになりました。この大会は、全国の校友と日本大学の役員・教職員

が年に一度、一堂に会し交流することで“絆”を深め、同窓としての意識を確かめ合い、日本大学のさらなる発展に寄与することを目的としています。昨年は全国から、800名を超える校友の皆さまにご参加いただきました。今年はさらに多くの校友の方々にお会いできることを願っております。



開催日:平成25年11月11日(月) 午後6時～

会場:東京ドームホテル 天空(地下1階)
(東京都文京区後楽1-3-61)

会費:10,000円

申込方法:郵便振替による会費振り込みでのお申し込み

(詳細は、校友会事務局からの案内をご覧ください)

◎問い合わせ

日本大学全国校友大会事務局(校友会本部事務局庶務課)
TEL03-5275-8143 FAX03-5275-8330
ホームページ:http://www.nihon-u.ac.jp

校友会会員番号の変更について

平成25年4月から会員管理システムの変更に伴い、会員番号の変更を行いました。これまで7桁で管理しておりましたが、8桁に変更しております。正会員の方は、今年度送付された会員証をご確認ください。また、準会員の方ですでに会員証がお手元にある方には、改めて会員証の発行はいたしませんので、準会員番号を使用する場合は、現在付与されている準会員番号の頭に「1」を付けて使用してください。

平成25年度校友会役員総会

平成25年度の校友会役員総会が7月5日(金)、東京都文京区の東京ドームホテルで開催されました。総会では、はじめに平成24年度の準会員への診療費助成や奨学金、25年度校友子女入試の結果と26年度の入試の概要、24年度の各種運営委員会の活動などの報告がされました。その後、24年度収支決算、25年度事業計画と収支予算などが審議され、すべての議案が承認されました。

引き続き、支部・部会への補助金交付式と校友子女入試特別優待生への賞状授与式が行われました。授与式には、特別優待生に選ばれた48人(合格者90人)のうち、亀田 絵美里さん(歯学部歯学科)ら10人が出席し、田中会長から賞状が授与されました。



校友会役員総会の様子



特別優待生の皆さん

平成25年度事業計画について

- 1 各種運営委員会・各支部総会開催計画
- 2 正会員事業計画
 - ①全国校友大会の開催
(会則第3条第3号「全国校友大会等の開催に関する事項」)
 - ②日本大学創立130周年記念事業への支援
(会則第3条第8号「日本大学への寄付等支援事項」)
 - ③校友子女入学試験の推進
(会則第3条第12号「学生等の募集及び就職支援事項」)
 - ④スポーツの振興
(会則第3条第15号「体育及び文化活動助成事項」)
 - ⑤その他必要とする事業
(会則第3条第18号「その他の必要事項」)
- 3 準会員事業計画
 - ①日本大学創立130周年記念事業への支援
(会則第3条第8号「日本大学への寄付等支援事項」)
 - ②就職活動への支援事業
(会則第3条第12号「学生等の募集及び就職支援事項」)
 - ③特別優待生への奨学金給付
(会則第3条第14号「準会員の奨学事項」)
 - ④校友会独自の奨学金給付
(会則第3条第14号「準会員の奨学事項」)
 - ⑤スポーツ優秀者の表彰
(会則第3条第15号「体育及び文化活動助成事項」)
 - ⑥スポーツ団体・優秀者に対する奨励金の交付
(会則第3条第15号「体育及び文化活動助成事項」)
 - ⑦全学文化事業(NU祭)の支援
(会則第3条第15号「体育及び文化活動助成事項」)
 - ⑧診療費の助成
(会則第3条第17号「準会員の診療費助成事項」)
 - ⑨その他必要とする事業
(会則第3条第18号「その他の必要事項」)

校友会新規加盟団体

(平成24年度役員総会以降)

日本電設工業校門会
坂田桂三ゼミ校門会
しんきん校門会

特別優待生に聞く 喜びと校友への感謝の声

亀田 絵美里さん
歯学部 歯学科1年



私は高校3年生の夏まで文系の学生として勉学に励んでおり、卒業後のことは深く考えていませんでした。歯学部を卒業した父に何度か学校説明会に連れて行っていただきましたが、自分が医療の現場に携わることは無縁だと思っていました。しかし、卒業して数十年経っている父が歯学部の仲間や先生方と親しくしている姿を見て、強い絆やつながりを感じ、勉強だけでは得られないものを得ることができる学部だと思い、校友子女入試を受けることに決めました。特別優待生に選ばれた今、私はやる気と感謝に満ちあふれています。

山口 祐美さん

経済学部 産業経営学科1年



生産工学部卒業の父は建築会社を営んでおり、経理は母が担当しています。以前から経済や経営には興味を持っていましたが、父や母の姿を見てさらに意志が強くなりこの学科を選びました。兄は、現在建築学部で学んでおり、将来兄妹で助け合いながら継ぎたいと考えています。そのために、経済や経営の基礎からしっかり学んでいきたいです。特別優待生という賞をいただき、校友の皆さんへの感謝を忘れず、その名に恥じぬよう努力し勉学に励みます。

Information

●インフォメーション

◎本誌への情報提供、

ご意見、お問い合わせは…

この会報は、会員相互のコミュニケーションを深めていただくことを目的に、1人でも多くの校友や在学生の紹介記事を載せています。お店やお宿を営んでいる方、ユニークな先輩や後輩をご存じの方、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦は問いませんので、事務局までお知らせください。

◎住所・勤務先が変わったら…

住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。

◎会員証を紛失されたら…

会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行いたします。

◎新規会員を紹介したい…

新規に会員希望の方をご存じの方は、事務局までご連絡ください。資料を送付いたします。

1 封筒、はがきで

〒102-0076
東京都千代田区五番町2-6
日本大学校門会館
日本大学校友会本部事務局校友課『桜縁』係

2 電話、ファクシミリで

TEL 03-5275-9300
FAX 03-5275-9122

3 電子メールで

E-mail: koyu@nihon-u.ac.jp

次号「桜縁」第24号は

1月下旬発行予定です!

●特集

「笑う門には福来る(仮題)」

次号では、「笑う」をテーマに、笑うことのすばらしさを皆さまにお届けします。人を笑わせることを職業にしている校友、笑いをテーマに研究している校友など、ユニークでユーモアあふれる特集をお楽しみに。

●先輩にインタビュー「土木の仕事」

安心・安全な生活環境に欠かせない土木技術。最近では女子の進出も著しい「土木の仕事」について先輩にインタビュー、その魅力を探ります。

※内容は、都合により変更される場合もあります

桜縁 No.23 平成25年7月発行

編集・発行 日本大学校友会
〒102-0076 東京都千代田区五番町2-6 日本大学校門会館
TEL 03-5275-9300 FAX 03-5275-9122

■広報委員会

委員長: 綾部 東洋子
委員: 石 光 井上 開陽雄 内田 章
小橋 恵津 萩原 正芳 茂木 完仁
齋藤 正道 高橋 浩 三橋 満
石田 秀樹 米崎 寛



Present ●桜縁 No.23

読者プレゼント

巻末のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントを差し上げます。ご希望の賞品番号をアンケートはがきにご記入のうえ、ご応募ください。なお、当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

01 スペースグッズ 宇宙食レトルトカレー& ボールペン2種

抽選で
各**1名**さまに



02 家庭用 プラネタリウム

抽選で
各**1名**さまに



HOMESTAR aroma



HOMESTAR AQUA



HOMESTAR R2-D2

03 北軽井沢ハイランドリゾートホテルアネックス棟 ペア宿泊券(1泊2食付)

抽選で
2組さまに



08 小大黒屋 和蠟燭2本セット

抽選で
2名さまに



04 浅間ハイランドパーク オリジナルワイン(赤白2本入り)

抽選で
3名さまに



09 綾部徹之進著 『クラシック・レコード デザイン集 ロシア&ポーランド編』

抽選で
3名さまに



05 和田豊監督直筆 サインボール

抽選で
3名さまに



10 櫻井寛著 『宮脇俊三と旅した 鉄道風景』

抽選で
3名さまに



06 始祖清水屋 手打ちうどん おみやげ 4人前セット

抽選で
3名さまに



11 葉石かおり著 『日本酒 テイस्टینگ BOOK 西日本編』

抽選で
3名さまに



07 藍染・阿波しじら織 ブックカバー

抽選で
3名さまに



12 なかだえり著 『駅弁女子 —日本全国 旅して食べて』

抽選で
3名さまに



編集後記

特集「上を向いて歩こう」は、いかがだったでしょうか。広大な宇宙の片隅にある地球。その地球から宇宙を見上げると満天の星空。季節も夏を迎え、夜空を見上げるのにちょうどいい季節となりました。今年の夏は子どものころを思い出し、星空を見上げる時間を少しでもとってみてはいかがでしょうか。

航空宇宙産業は、今後成長が期待されている産業です。まだ日本では学術的な分野にとどまっているだけと思われがちですが、今、巷ではやっている加圧トレーニングは、もともと宇宙飛行士の訓練用に開発されたものだそうです。そういえばずいぶん無理に負荷をかけているような気がしました。

また、「先輩にインタビュー」で取り上げたプライダルは、時代とともに大きく変化しており、びっくりした人も多いのではないでしょうか。「昔なら、〇〇だった」などと、先輩方の声が聞こえてきそうです。時代の変化はあるものの、結婚する二人の幸せを願う気持ちはこれからも変わらないでほしいと思います。

(Y)

がんばれ！日大スポーツ

31部のちから

スポーツの日大復活のために

寄付金募集

郵便振替口座

口座名

日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

00190-7-585685

問い合わせ先

日本大学校友会本部事務局校友課

〒102-0076 東京都千代田区五番町 2-6

日本大学桜門会館

TEL 03-5275-9300

FAX 03-5275-9122

<http://www.nichidai-sports.jp/>

日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

このデザイン画は、生産工学部4年・原田伶さん制作の第3回校友会公式ポスター大賞最優秀賞受賞作品です。